

伝統からかみの譜

染め紙編

しおり草

伝統からかみの端
染め紙編
しおり草

「染め紙」の歴史は古く、正倉院の遺物や文書の中にも見受けられます。平安時代になると、大量の和紙が、写経や料紙に使われるようになり、染め紙もさまざまな色で漉かれました。

ことに、「うすよう」と呼ばれた紙は、薄い雁皮紙を染めつけたもので、ここさら美しかったようです。

このような「染め紙」は、今日でも作ることは可能ですが、数多くの色合いを持ち、品質の良い手作りのものは僅かしありません。

まして、建築空間の中で使えるような大判のものは、見かけることがないと言っても過言ではないでしょう。

私どもは、ふすまのショールーム「からかみ屋」を通して、多くの方々のご意見を頂戴して参りました。

中でも、染め紙に関わるご要望には、刷毛染めで対応させていただきましたが、顔料独特の風合いは、やわらかな染料の染めつけとは違い、すべての皆様のご要望にはお応えできませんでした。

そこで本書では、染料を使った「浸け染め」の技法による、手作り一品制作の「染め紙」をご紹介します。

日本の伝統色・十八色を基本に、明度を三段階に分けて、合計五十四色の染め色を用意しました。

収録したいずれの和紙にも、染め色の五十四色を染めつけることができます。この「染め紙」を下地に、「雲母摺り」、「刷毛ぼかし染め」、「金銀泥引き」、「金銀砂子」など、多彩な加飾技法を展開することも可能です。

手作りならではの長所をデザインの一助としていただければ望外の喜びでございます。

「しおり草」

江戸時代の俳諧では季語が著しく増え、江戸初期の『俳諧初学抄』では約六百語だったものが、幕末の『俳諧歳時記染草』では三千語を軽く超えています。

この『俳諧歳時記染草』は、曲亭馬琴の『俳諧歳時記』を青藜が増補したもので、明治時代以降まで水く用いられました。

染草のしおりは「枝折り」とも書き、元の意は、村人が山道などで帰路の道しるべとして木の枝を折りかけたものと言われています。

『俳諧歳時記染草』は、風流なる文化の道しるべとして愛されてきたわけです。

う 揉 み 紙 し 紙
無 地 漉 き 紙
漉 き 模 様 紙
雲 母 摺 り 染 め
鳥 の 子
細 工 貼 り
ご 使 用 に 際 し て
引 き 手

● 222 ● 219 ● 200 ● 80 ● 50 ● 40 ● 30 ● 20 ● 10

この「しおり草」は、注文制作のふすま紙の見本帖です。手漉き和紙を中心に、収録した和紙を、54色の染料で染めつけます。
ご注文いただいてから染めつけいたしますので、納品まで2週間程度のご猶予をいただきます。
この54色は色相で18色を基本に、それぞれ明度を3段階に変化させたものです。このため、ご発注の際の商品番号は次のような組み合わせとなります。

①	②	③	④
和紙番号	色番号	明度記号	(寸法)
8 2	2 0 1	A	(3 × 6)

①	和紙番号	：	1 1 ～ 8 2
②	色 番 号	：	2 0 1 ～ 2 1 8
③	明度記号	：	A (深染め)・B (中染め)・C (浅染め)
④	寸 法	：	和紙の規格寸法(各頁に記載)

見本帖では、1種類の和紙に7色の染め見本を添付していますが、ご希望により82頁の栞染め鳥の子54色の中から、染め色の指定をすることができます。(染め色の指定について・221頁参照)
収録した紙はすべて越前和紙で構成していますが、ほとんどが手漉きのため、規格寸法もそれぞれ違います。例えば、「3×6」の表示でも和紙によって寸法が若干違うことがあります。それぞれの頁に規格寸法を記載いたしましたので、厳密な寸法は、cm表示をご覧ください。

うつし紙

越前島の子の肌は、穏やかさの中に優雅な光沢を特徴とします。

このため、漉き人たちは紙肌を傷めぬように、

丁寧に注意深く取り扱います。

漉き上げた湿紙は大判の銀杏の板に貼り付けて乾燥させますが、

この時、板の表面に毛筋ほどの傷でもあると、

それが島の子の肌に写り、不良品になってしまいます。

大変デリケートな作業なのです。

このことを逆手にとってつくられたのが

板目紙と呼ばれるものです。

松や杉の板をささら（竹を細かく割いて束ねたもの）で

磨き上げて木目を際立たせます。

この板で湿紙を乾燥させ、

紙肌に板目の模様を写したものを言います。

ここでは、この技法をさらに応用して、

伝統工芸の竹細工の肌を写すことを試みてみました。

素朴で繊細な竹の繊維の動きまでも写し取って、

和紙の肌合いの中に再現しています。

（うつし紙の「細代」と「草庵目」のオリジナルは竹工芸家・田中旭輝氏の作品です。）



うつし紙・網代



網代編み



莫座目編み

網代・石板色・深染め



11-218-A (和紙番号一色番号一明度記号)

うつし紙

網代 (あじろ)

古来には宇治川や瀬田川に設けられた「梁」や「な」を意味し、万葉集にも宇治網代などの記述が見受けられます。室町時代以降、竹細工は発達し、茶の湯の流行によって美術工芸までに高められました。また、茶室や数寄屋造りに、建築素材として竹が多く用いられたこともあり、今日でも装飾的な天井、下地窓や、光悦垣、建仁寺垣と言った垣などに網代の文様が広く利用されています。本書の網代は、「二本網代」と言い、デザインとしても見飽きることはない編み方です。

特許出願中

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6 (幅97cm × 丈186cm)
3×7 (幅97cm × 丈205cm)

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際 (82頁) ●染め色の指定について (221頁)
●細工貼りの作品例 (200頁～) ●壁紙としてお使いの際 (219・220頁)
●特注の加飾について (221頁) ●表面処理について (221頁)

網代・千歳茶・深染め



11-206-A

網代・老緑・深染め



11-205-A

網代・二藍・深染め



11-202-A

網代・梅鼠・深染め



11-214-A

網代・代赭色・深染め



11-210-A

網代・生壁色・深染め

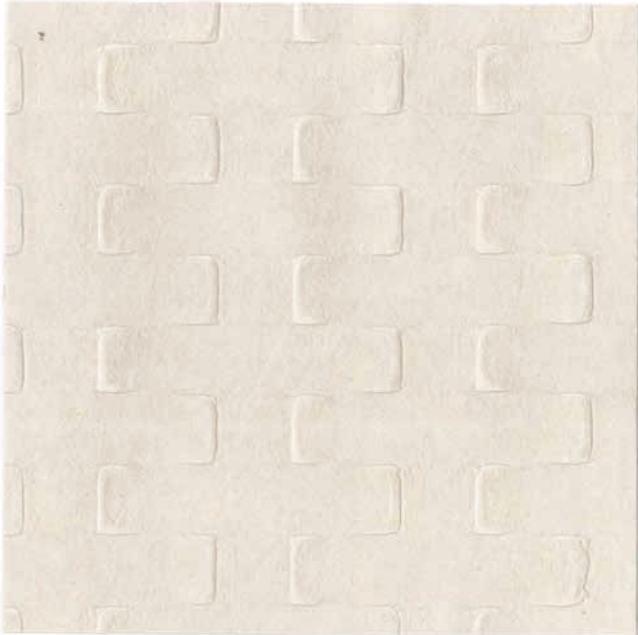


11-208-A

●元となる竹細工はすべて手作りのものです。このため量産壁紙のように、模様のつながりやリピートなどは一定ではありません。また、天然素材のため、部分によっては竹の節や裂いたときの傷などが紙に写ることもあります。

●部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
●凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、暮水 (どうき) 引きによる表面処理をお勧めします。(有償加工・221頁参照)

莫 塵 目・千歳茶・浅染め



12-206-C （和紙番号―色番号―明度記号）

特許出願中

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅97cm × 丈186cm）
3×7（幅97cm × 丈205cm）

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

う つ し 紙

莫 塵 目 (こざめ)

竹の編み方には編み目の形で、四つ目編み、六つ目編み、八つ目編みのほか、ざる目編みや網代編みなどがあります。こざめでは、ざる目編みの一種の莫塵目に編んだものを用いました。ざる目編みは、文字通り「ざる」などの編み方として使われていますが、平らなものは、数物の莫塵（こざめ）や筵（むしろ）の織り目と似ているところから、莫塵目編みとも呼ばれます。整然と組まれた編み目の一本ごとに、細かな竹の繊維が写し取られています。

莫 塵 目・錫色・浅染め



12-201-C

莫 塵 目・錆青磁・浅染め



12-204-C

莫 塵 目・生壁色・浅染め



12-208-C

莫 塵 目・梅鼠・浅染め



12-214-C

莫 塵 目・空五倍子色・浅染め



12-216-C

莫 塵 目・石板色・浅染め

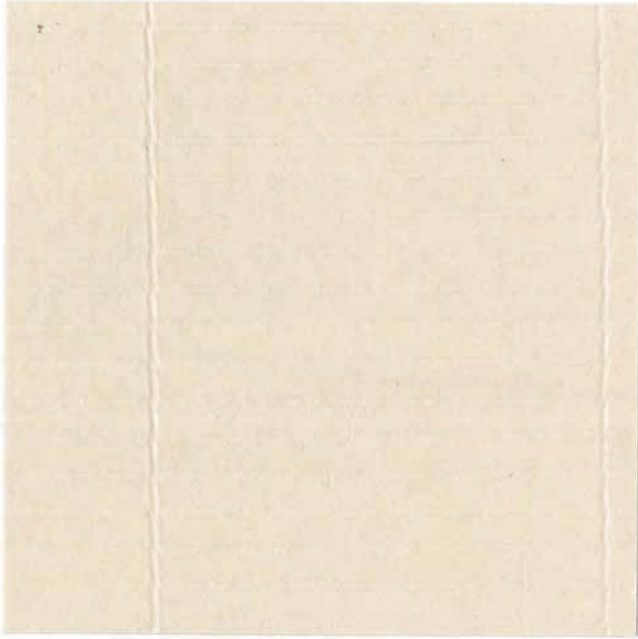


12-218-C

●元となる竹細工はすべて手作りのものです。このため量産壁紙のように、模様をつながりやリピートなどは一定ではありませんし、横の隙は水平な平行線とは限りません。また、天然素材のため、部分によっては竹の節や裂いたときの傷などが紙に写ることもあります。

●部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
●凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、髹水（どうさ）引きによる表面処理をお勧めします。（有償加工・221頁参照）

小判簾・黄朽葉・浅染め



13-207-C (和紙番号一色番号一明度記号)

特許出願中

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6 (幅97cm × 丈186cm)
3×7 (幅97cm × 丈205cm)

〈参 照〉 ●この頁にない染め色をご希望の際 (82頁) ●染め色の指定について (221頁)
●細工貼りの作品例 (200頁～) ●壁紙としてお使いの際 (219・220頁)
●特注の加飾について (221頁) ●表面処理について (221頁)

うつし紙

小判簾

(こばんすだれ)

「すだれ」の語源は簀垂(すだれ)であり、簀(す)は「すきま」から出た言葉で、もとは敷物と言われます。

簀とみられる遺物は縄文時代からあり、また、万葉集に「わがやどの簾動かし秋の風吹く」などをはじめとして、

「すだれ」を詠んだ歌も数多くあります。のよに、「すだれ」は日本で古くから使われてきました。

ここでは、一本ごとに編み竹を面取りして断面を楕円形に仕上げています。の形から「小判」の名がつけられました。

小判簾・錆青磁・浅染め



13-204-C

小判簾・千歳茶・浅染め



13-206-C

小判簾・芝翫茶・浅染め



13-209-C

小判簾・胡桃染・浅染め



13-215-C

小判簾・空五倍子色・浅染め



13-216-C

小判簾・石板色・浅染め

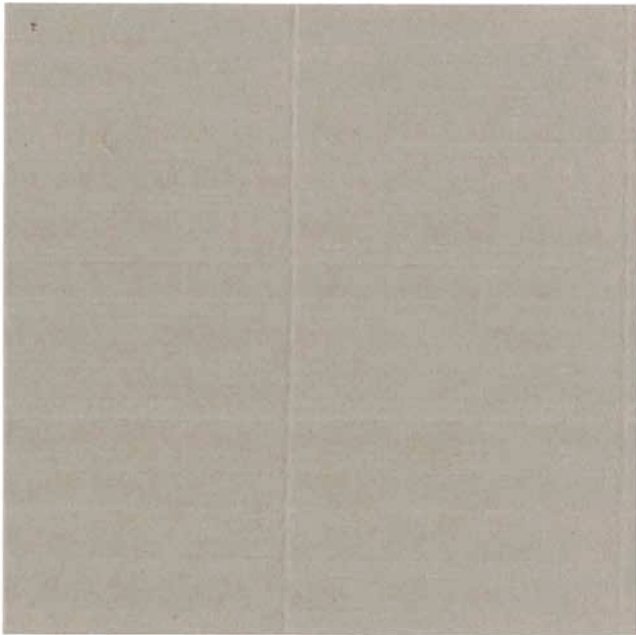


13-218-C

- 元となる竹細工はすべて手作りのものです。このため量産壁紙のように、模様をつながりやリピートなどは一定ではありませんし、横の線は水平な平行線とは限りません。また、天然素材のため、部分によっては竹の節や裂いたときの傷などが紙に写ることもあります。
- すだれの編み糸は、厳密には直線ではありません。その都度、左右に多少の“ゆがみ”が出ます。

- 部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
- 凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、髹水(どうざ)引きによる表面処理をお勧めします。(有償加工・221頁参照)

子持ち簾・石板色・中染め



14-218-B (和紙番号一色番号一明度記号)

うつし紙

子持ち簾

(一)もちすだれ

太い筋に沿って細い筋を平行に配したものを子持ち筋と呼びます。
太い筋の片側だけに細い筋を添える片子持ちと、両側に添える両子持ちとがあります。
また、一本の太い筋の間に一本の細い筋を挟んだものは、礼の時の器物や衣服などに祝いの文様として用いられました。すだれです。

子持ち簾・湊鼠・中染め



14-203-B

子持ち簾・黄朽葉・中染め



14-207-B

子持ち簾・芝蔴茶・中染め



14-209-B

子持ち簾・代赭色・中染め



14-210-B

子持ち簾・灰紫・中染め



14-213-B

子持ち簾・胡桃染・中染め

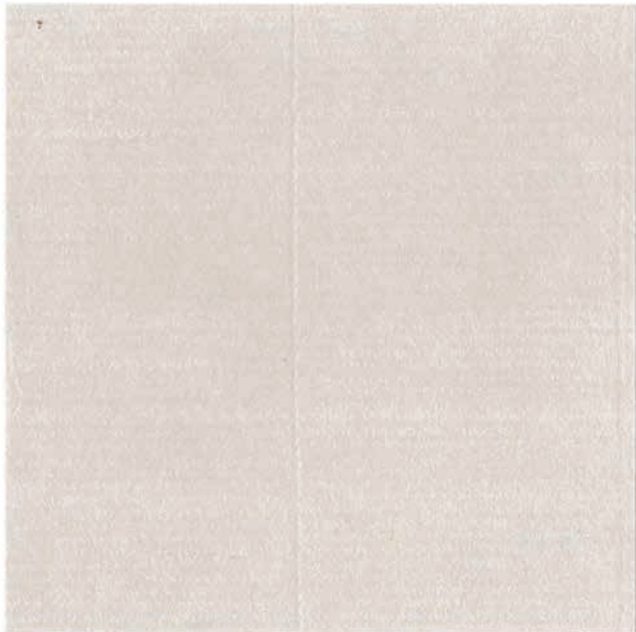


14-215-B

- 元となる竹細工はすべて手作りのものです。このため量産壁紙のように、模様をつながりやリピートなどは一定ではありませんし、横の線は水平な平行線とは限りません。また、天然素材のため、部分によっては竹の節や裂いたときの傷などが紙に写ることもあります。
- すだれの幅み糸は、厳密には直線ではありません。その都度、左右に多少の“ゆがみ”が出ます。

- 部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
- 凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、髹水(どうすい)引きによる表面処理をお勧めします。(有償加工・221頁参照)

細簾・石板色・浅染め



15-218-C（和紙番号―色番号―明度記号）

特許出願中

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅97cm × 丈186cm）
3×7（幅97cm × 丈205cm）

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

うつし紙

細簾（ほそすだれ）

すだれは一般には縁（り）がつきませんが、縁付きのものを御簾（みす）と呼び、使い分けています。
すだれは戸口や軒先など外部に面した場所に向け、御簾は室内にかけると言いますが、今日では特に決まりはないようです。
すだれは、このように空間を仕切るこのほか、紙漉きの道具としても使われています。
漉き術の上には、漉き簾と呼ばれる、細く、目の積んだすだれを置いて紙を漉きます。
この細すだれは、漉き簾の繊細な表情を享してみたものです。

細簾・湊鼠・浅染め



15-203-C

細簾・錆青磁・浅染め



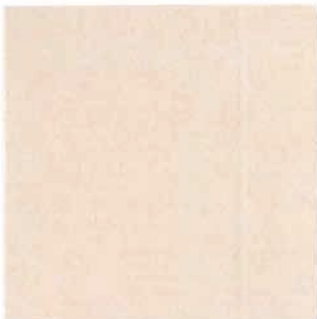
15-204-C

細簾・黄朽葉・浅染め



15-207-C

細簾・芝翫茶・浅染め



15-209-C

細簾・代赭色・浅染め



15-210-C

細簾・鳩羽色・浅染め



15-217-C

- 元となる竹細工はすべて手作りのものです。このため量産壁紙のように、模様をつながりやリピートなどは一定ではありませんし、横の線は水平な平行線とは限りません。また、天然素材のため、部分によっては竹の節や裂いたときの傷などが紙に写ることもあります。
- すだれの編み糸は、厳密には直線ではありません。その都度、左右に多少の“ゆがみ”が出ます。

- 部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
- 凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、暮水（どうき）引きによる表面処理をお勧めします。（有償加工・221頁参照）

揉み紙

伝承された揉み方には、大蔵揉み、榛原揉み、菱菊揉み、霞揉みなど十数種の技法が伝えられています。用途により使い分けていたようです。和紙は揉まれることによつて、独特の風合いを持った表情のある建築素材に変わります。それは、和室だけでなく、洋空間や商業空間にも素直に溶け込みます。ここでは、ふすま紙や壁紙として使いやすい「水揉み」と「雲母揉み」の二種類の揉み紙を収録しました。両者とも、このままふすまや壁面に施工すると凹凸は消えますが、揉みの表情はより優しくなつて残ります。

水揉み・鳩羽色・中染め



21-217-B (和紙番号―色番号―明度記号)

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6 (幅 98cm × 丈186cm)
3×7 (幅 98cm × 丈205cm)
4×6 (幅120cm × 丈186cm)
4×7 (幅120cm × 丈205cm)
5×6 (幅135cm × 丈186cm)

※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火1 繊維壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

揉み紙

水揉み

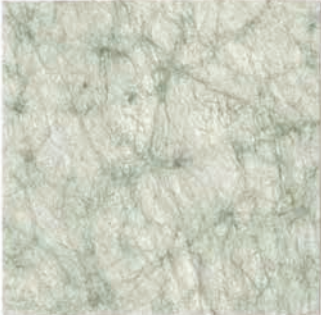
あらかじめ和紙の表面を漿水(どうすい)などで刷毛引きし、薄い膠(にかわ)の層をつくります。
その上に十分な量の染料を塗布して揉み始めます。
揉まれてできる皺(しわ)の部分の膠は、割れて染料が強く染めつき、皺の少ない部分は薄く染めついて、
陰影のある揉み紙の表情ができます。何回も繰り返される揉みの作業が、この紙の微妙な風合いをつくりあげます。
このため揉み紙として使われる和紙は、楮などの韧皮(じんぴ)繊維を主原料とした丈夫なものでなければなりません。

水揉み・錫色・中染め



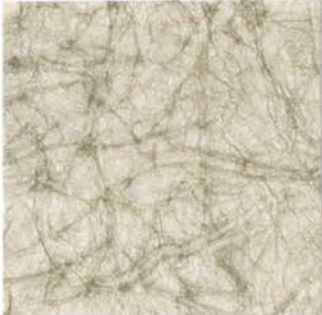
21-201-B

水揉み・錆青磁・中染め



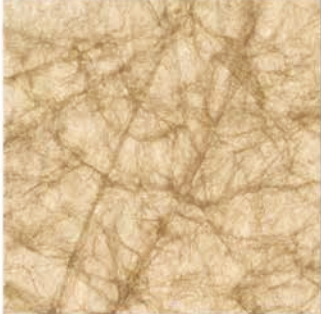
21-204-B

水揉み・老緑・中染め



21-205-B

水揉み・生壁色・中染め



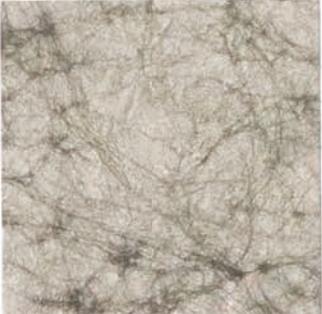
21-208-B

水揉み・胡桃染・中染め



21-215-B

水揉み・石板色・中染め

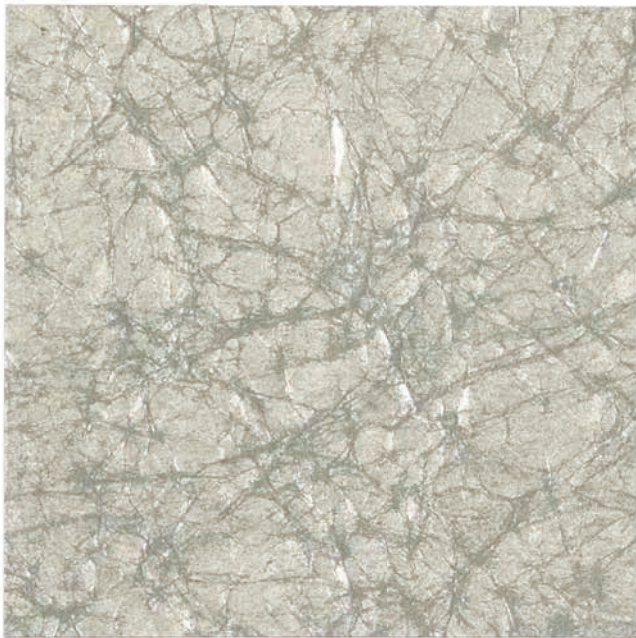


21-218-B

- 1枚ごとに手染めしてから手揉みをするため、揉みの表情はその都度かわります。予め紙の並ぶ順序を決めてから、貼られることをお勧めします。
- 染め色の濃度が明度C(浅染め)で染めますと、収録した明度B(中染め)よりコントラストが若干弱くなりますが、穏やかな柔らかさを感じさせます。

- 揉み紙は紙の繊維が折れて柔らかくなり、同時に乾く時の縮み方(引き)も弱くなります。揉み紙をふすまや板戸の片面のみに貼る際は、反りの原因になることがありますので、裏面に貼る紙とのバランスに注意してください。裏面に引きの強い鳥の子などを使う際は、揉み紙の下貼りに上質な清ベタをお勧めします。
- 施工の際は裏面から刷毛で水を引き、揉み皺を十分に伸ばしてから貼ってください。

雲母揉み・老緑・深染め



22-205-A (和紙番号―色番号―明度記号)

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6 (幅 98cm × 丈186cm)
3×7 (幅 98cm × 丈205cm)
4×6 (幅120cm × 丈186cm)
4×7 (幅120cm × 丈205cm)
5×6 (幅135cm × 丈186cm)
※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

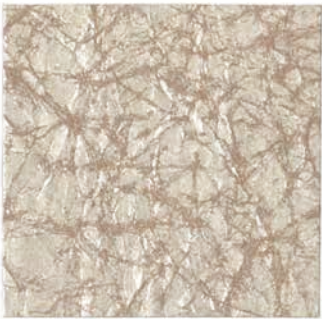
- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際 (82頁)
 - 染め色の指定について (221頁)
 - 細工貼りの作品例 (200頁～)
 - 壁紙としてお使いの際 (219・220頁)
 - 特注の加飾について (221頁)
 - 表面処理について (221頁)

揉み紙

雲母揉み (きらもみ)

まず下地となる染め紙をつくります。その上から雲母(きら)を刷毛引きし、十分に乾燥させます。
これを揉むことにより皺の部分の雲母を剥落させ、下地の染め紙の色を覗かせます。
雲母は落ち過ぎても、残り過ぎてもいけません。雲母が適度に剥落するように糊料を調整するのは容易ではありません。
水揉みが、染めて皺を見せるのに比べ、雲母揉みは、皺の部分の雲母を剥落させて見せます。
雲母の後ろに隠された染め色が、皺のつながりを穏やかに見せます。

雲母揉み・芝翫茶・深染め



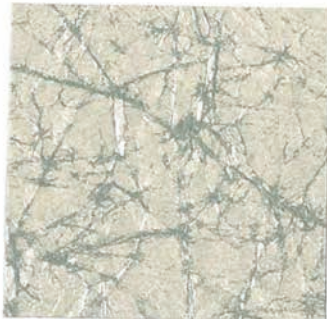
22-209-A

雲母揉み・黄朽葉・深染め



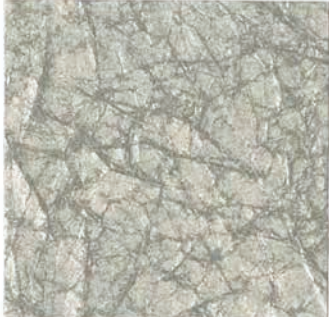
22-207-A

雲母揉み・錆青磁・深染め



22-204-A

雲母揉み・石板色・深染め



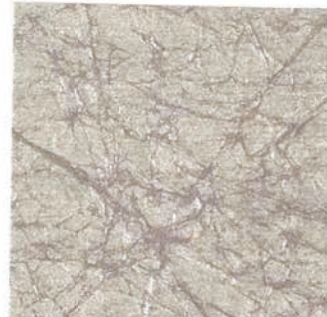
22-218-A

雲母揉み・灰紫・深染め



22-213-A

雲母揉み・葡萄色・深染め



22-212-A

- 1 枚ごとに手染めしてから手揉みをするため、揉みの表情はその都度かわります。予め紙の並ぶ順序を決めてから、貼られることをお勧めします。
- 収録した見本の染め色は濃色の明度 A (深染め) ですが、明度 C (浅染め) で染めますと、淡い染め色は雲母に覆われてますます淡く見え、色相の差がほとんど目立たなくなります。

- 揉み紙は紙の繊維が折れて柔らかくなり、同時に乾く時の縮み方(引き)も弱くなります。揉み紙をふすまや板戸の片面のみに貼る際は、反りの原因になることがありますので、裏面に貼る紙とのバランスに注意してください。裏面に引きの強い島の子などを使う際は、揉み紙の下貼りに上質な清ベタをお勧めします。
- 施工の際は裏面から刷毛で水を引き、揉み皺を十分に伸ばしてから貼ってください。

無地漉き紙

昔から、越前和紙の大きな特徴は、塵ひとつない無地鳥の子の肌合いの美しさです。

一方、同じ無地でも紙表に

楮や三桎などの韌皮繊維を用いた

「溜め漉き」（ためずき）のものは、

自然に繊維の流れがつけられ、

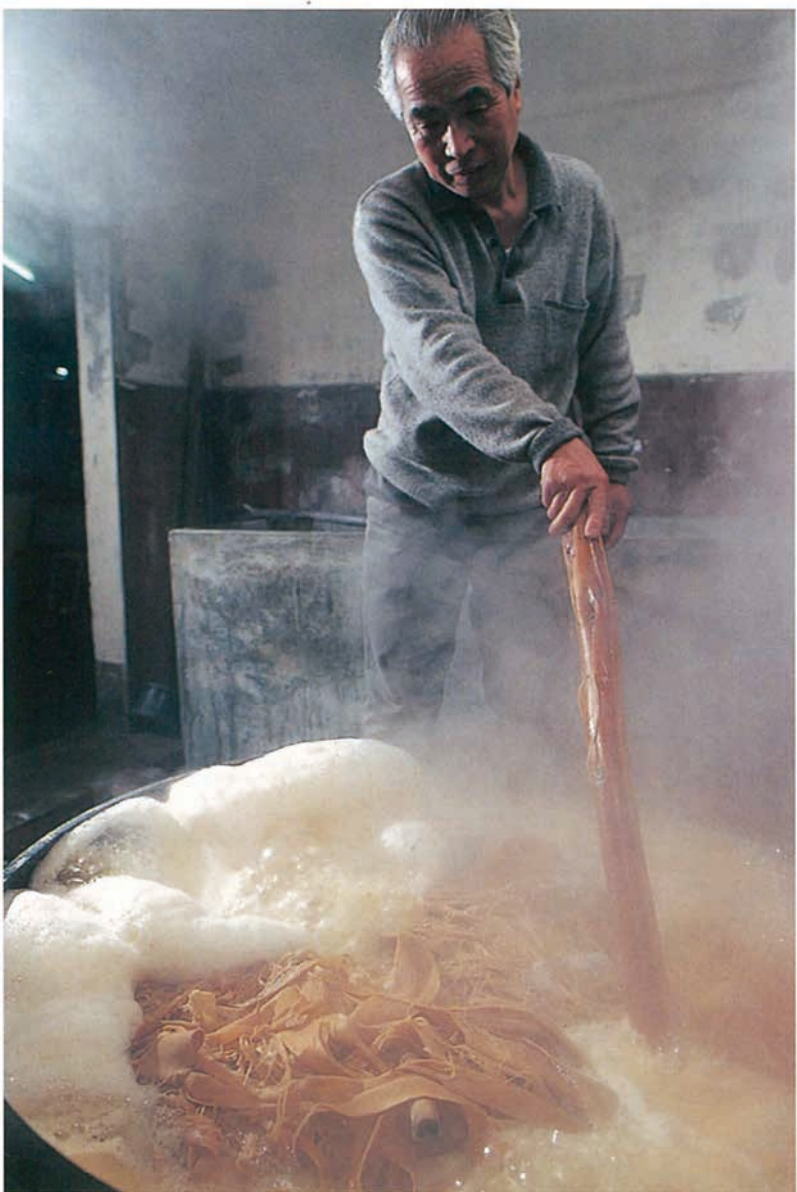
雲のような模様が浮き上がります。

無地と言えども多様な表情があり、

さまざまなものをつくることができます。

ここに収録した和紙は、その中でも個性的な

肌合いがあるものを集めています。



三極の煮熟

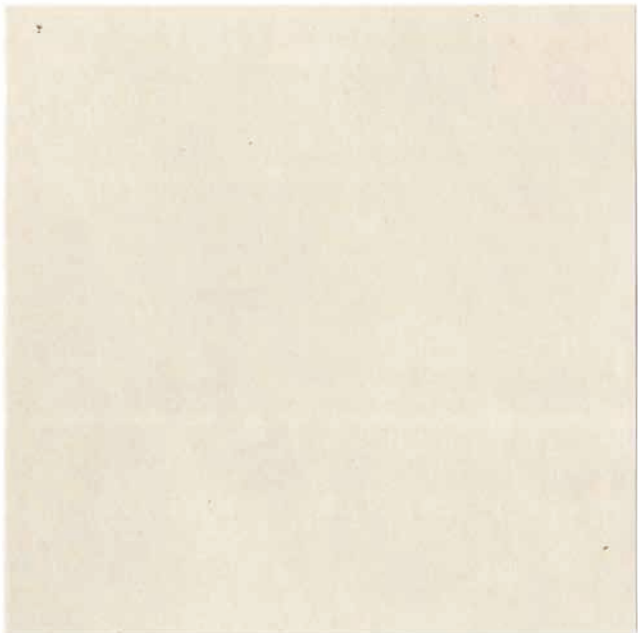


手漉き本鳥の子・流し漉き



櫓の古木による圧搾

雲肌・千歳茶・浅染め



31-206-C（和紙番号—色番号—明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅98cm × 丈186cm）
3×7（幅98cm × 丈205cm）

※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

無地濃き紙

雲 肌

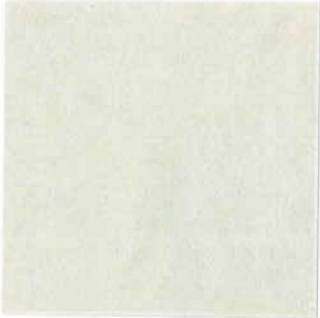
和紙の命名には、名付けた人の感性の豊かさとおおらかに感嘆することがよくあります。この「雲肌」もそのひとつです。
水の流れとは違い、穏やかで広がりのある雲の流れなのでしよう。
雲間に輝く光のように、繊維の一本一ことが光線を反射し、雲の流れを際立たせています。

雲肌・生壁色・浅染め



31-208-C

雲肌・錆青磁[※]・浅染め



31-204-C

雲肌・錫色・浅染め



31-201-C

雲肌・石板色・浅染め



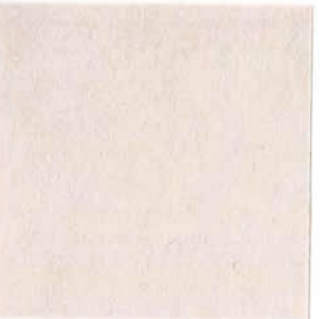
31-218-C

雲肌・空五倍子色・浅染め



31-216-C

雲肌・梅鼠[※]・浅染め

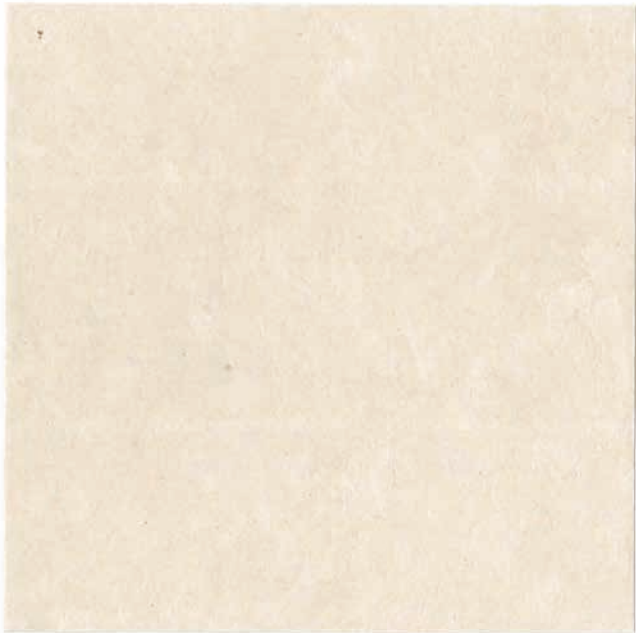


31-214-C

●紙の繊維の流れが大きな雲肌をつくり、微妙な光沢の違いで雲の流れを際立たせます。見本帖では小さなサンプルですが、光の角度を変えてご覧ください。

●雲の流れは1枚ごとに違います。予め紙の並ぶ順序を決めてから、貼られることをお勧めします。

花朧・黄朽葉・浅染め



32-207-C (和紙番号一色番号一明度記号)

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。

3×6 (幅98cm × 丈186cm)

3×7 (幅98cm × 丈205cm)

※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際 (82頁)
 - 染め色の指定について (221頁)
 - 細工貼りの作品例 (200頁～)
 - 壁紙としてお使いの際 (219・220頁)
 - 特注の加飾について (221頁)
 - 表面処理について (221頁)

無地漉き紙

花朧 (はなおほろ)

越前の和紙は際だって美しいものと評価されています。それは、丁寧に選採りされた紙料を、いかに限りなく均等に分散させるかにかかっています。ここでは逆に、紙料を遊離させてからさらに凝縮させてみました。このような風合いは、越前ではきつと異端な紙になることでしょう。

花びらのように、柔らかな丸みのあるひとひらが、集い会っておぼろな文様をつくっています。

花朧・芝翫茶・浅染め



32-209-C

花朧・千歳茶・浅染め



32-206-C

花朧・錆青磁・浅染め



32-204-C

花朧・石板色・浅染め



32-218-C

花朧・空五倍子色・浅染め



32-216-C

花朧・胡桃染・浅染め



32-215-C

●この紙は、裁つ際にカッターの刃が引っかけやすく、切り口が毛づれたようになることがあります。
カッターの刃は常に新しいものをご使用ください。

あられ肌・石板色・中染め



34-218-B (和紙番号一色番号一明度記号)

無地濃き紙

あられ肌

「鳥の子」に代表されるように、越前和紙の肌は穏やかで、濃いた女（ひと）の温もりをも伝えてくれそうです。このような優しさを持つ和紙に、少しばかりの荒れ肌と、いくばくかのレリーフを与えてみました。際立つて個性的な肌合いにも見えますが、和紙の持つ本質的な柔らかさは、変わらずに思っています。

- 規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6 (幅97cm × 丈186cm)
3×7 (幅97cm × 丈205cm)
- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

あられ肌・湊鼠・中染め



34-203-B

あられ肌・黄朽葉・中染め



34-207-B

あられ肌・芝翫茶・中染め



34-209-B

あられ肌・代赭色・中染め



34-210-B

あられ肌・灰紫・中染め



34-213-B

あられ肌・胡桃染・中染め

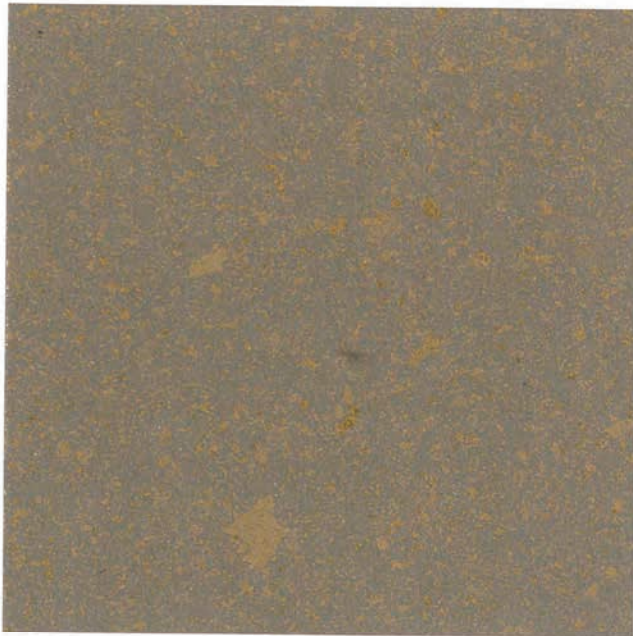


34-215-B

- 部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注意してください。
- この紙は、裁つ際にカッターの刃が引っかけやすく、切り口が割れたようになることがあります。カッターの刃は常に新しいものをご使用ください。

- 凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、澱水(どうさ)引きによる表面処理をお勧めします。(有償加工・221頁参照)

金梨地・石板色・深染め



35-218-A （和紙番号―色番号―明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
 3×6（幅98cm × 丈186cm）
 3×7（幅98cm × 丈205cm）
※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火壁装 1 級検定品

- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
 ●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
 ●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

無地 濃き紙

金梨地

（きんなしぢ）

金箔や銀箔を蒔き散らす伝統的な技法を金銀砂子細工と言い、このように、箔を全面均等に蒔いたものを「梨地蒔き」と呼びます。唱歌の『たなばた』の歌詞は、「…きんぎんすなご」で終わると言えば、星空のきらめきのイメージが湧くでしょう。この金銀砂子細工は、金網を張った竹筒に箔を入れて、蒔き散らす伝統技法ですが、ここでは、通常の砂子細工の技法を用いず、細かく千切った金箔と三極の繊維を水に混ぜて、湿紙の上に数回に分けて流し込み積層させたものです。それぞれの層ごとに箔の大きさと分量を変えて混ぜ重ねています。このような金梨地の蒔き潰しの構成は大変贅沢な表現ですが、さらに表面に微細な三極を上掛けして、金箔の光沢を控えめに押さえています。

金梨地・千歳茶・深染め



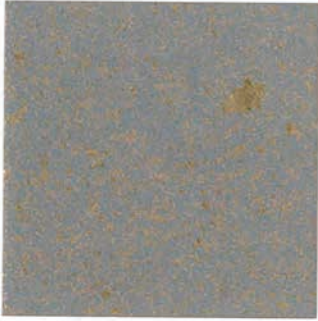
35-206-A

金梨地・老緑・深染め



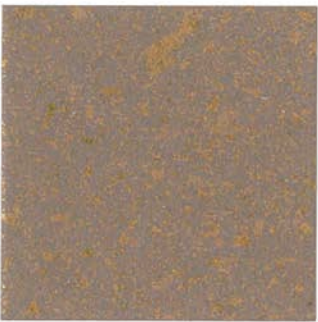
35-205-A

金梨地・二藍・深染め



35-202-A

金梨地・梅鼠・深染め



35-214-A

金梨地・代赭色・深染め



35-210-A

金梨地・生壁色・深染め



35-208-A

●この頁と次頁の「銀梨地」は、同一の染め色で配列しています。同じ染め色でも、金と銀では違う色に見えます。比較してご覧ください。染め色と金銀の箔との組み合わせは、ショールーム「からかみ屋」（227頁参照）でご覧になれます。

●金箔は本金箔ではありませんが、変色しにくいものを使用しています。本金箔による金梨地も制作いたします。
●収録した見本は、染め色が濃色の明度A（深染め）ですが、明度C（浅染め）で染めますと箔とのコントラストが色相をより淡く感じさせます。

銀梨地・石板色・深染め



36-218-A（和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
 3×6（幅98cm × 丈186cm）
 3×7（幅98cm × 丈205cm）
※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
 ●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
 ●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

無地漉き紙

銀梨地（ぎんなしち）

染め色によつては、前頁の金梨地と銀梨地では、色相が変化したように見えます。
同じ「老緑染め」でも、金梨地は黄色系の黄緑に見え、銀梨地では青みの銀色が映つて青緑に見えます。
ここでは、純金箔や純銀箔は使つていませんが、砂子細工の技法で本金や本銀をつかつて同じように制作することもできます。
純金箔やプラチナ箔は永遠に変色しません。純銀箔は経年変化し、十年も経つと、独特のくすんだやけ色になります。
この時のやけ加減は、何とも言えない上品な雰囲気を感じ出します。

銀梨地・二藍・深染め



36-202-A

銀梨地・老緑・深染め



36-205-A

銀梨地・千歳茶・深染め



36-206-A

銀梨地・生壁色・深染め



36-208-A

銀梨地・代赭色・深染め



36-210-A

銀梨地・梅鼠・深染め



36-214-A

●この頁と前頁の「金梨地」は、同一の染め色で配列しています。同じ染め色でも、金と銀では違う色に見えます。比較してご覧ください。染め色と金銀の箔との組み合わせは、ショールーム「からかみ屋」(227頁参照)でご覧になれます。

●銀箔は本銀箔ではありませんが、変色しにくいものを使用しています。本銀箔による銀梨地も制作いたします。本銀特有の経年による変化が楽しめます。
●収録した見本は、染め色が濃色の明度A（深染め）ですが、明度C（浅染め）で染めますと箔とのコントラストが色相をより淡く感じさせます。

漉き模様紙

抄紙技法による模様付けを、漉き模様と呼びます。

この技法は、紙を漉き上げる

工程の中で紙表の風合いに変化をつけたり、

模様を漉き込みしたり、紙料以外の植物などを

漉き合わせたりするものです。

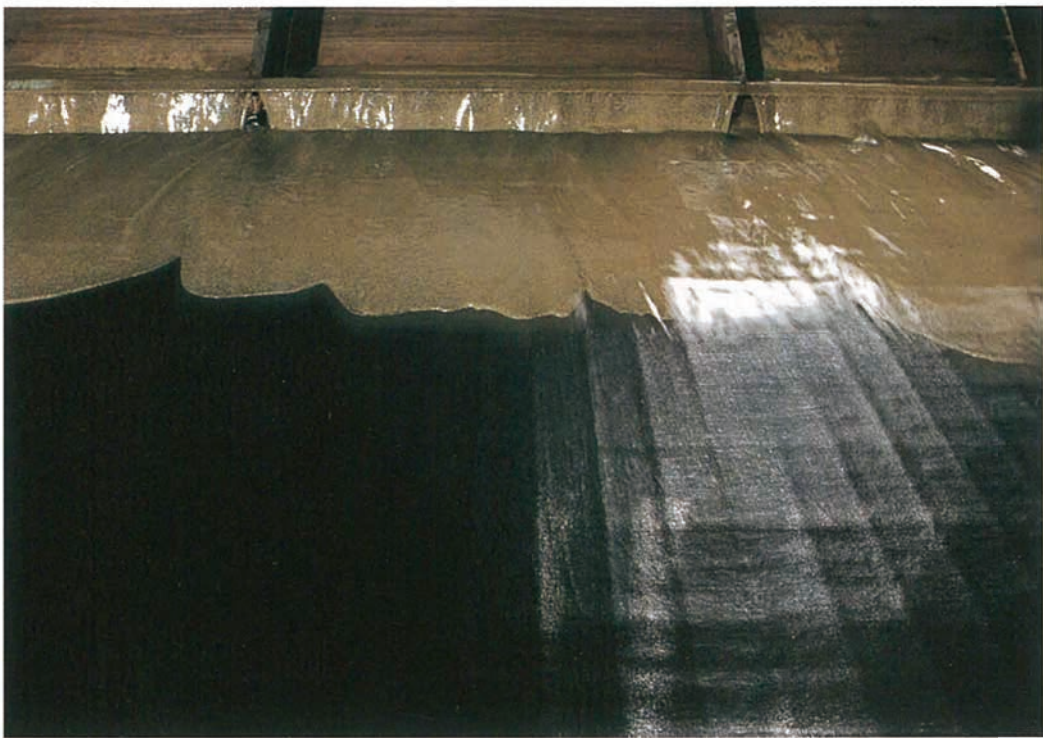
大半の技法は、明治時代以降に考案されたもので、

様々な工夫がなされてきました。

また、これらの技法を併用することによって、

漉き模様ならではの、

より繊細な表現ができます。



金布目・溜め流き



銅製たね箱



木製たね箱



翠雲紙・流し込み

糸目・千歳茶・浅染め



41-206-C（和紙番号一色番号一明度記号）

漉き模様紙

糸目

二枚の紙の間にさまざまなものを挟き込み込む技法を「漉き合わせ」と言います。
一般的には黄の上の湿紙に桜、紅葉、笹、羊歯などを置き、別の黄紙で漉いた薄い湿紙を重ねて、一枚の紙に漉き合わせます。
表の紙の薄さが、間に挟んだものを柔らかくぼかして見えます。
今回は、細目の毛糸を漉き合わせて、立体感のある横丁字の意匠にしてみました。
ふすま一枚で百本ちかくの毛糸を使いますが、手置きするため一本ごとに個性があります。

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅97cm × 丈186cm）
3×7（幅97cm × 丈205cm）

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

糸目・生壁色・浅染め



41-208-C

糸目・錆青磁・浅染め



41-204-C

糸目・錫色・浅染め



41-201-C

糸目・石板色・浅染め



41-218-C

糸目・空五倍子色・浅染め



41-216-C

糸目・梅鼠・浅染め



41-214-C

- 横縞模様には毛糸を1本づつ手で置いて作ります。このため、厳密には横縞の間隔は不揃いで
すし、横の線は水平な平行線とは限りません。量産壁紙のように、模様のつながりやリピートなども
一定ではありません。
- この紙は、裁つ際に切り口が毛つれたようになることがあります。カッターの刃は常に新しいものをご
使用ください。

- 部分的に凹凸の強い箇所ができることがあります。引き違いのふすまなどでは表面のこすれに注
意してください。
- 凹凸の文様を生かすために柔らかな紙に仕立てています。特に表面の強度が必要な場合は、髹
水(どろぎ)引きによる表面処理をお勧めします。(有償加工・221頁参照)

芸艸紙・鳩羽色・中染め



42-217-B（和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅98cm × 丈186cm）
3×7（幅98cm × 丈205cm）

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

漉き模様紙

芸艸紙

（うんそうし）

和紙は雁皮や三桧、楮などの繊維を原料としてつくられます。
正確には、茎の外皮の内側にある韌皮繊維を剥いて、叩解し、細かくほぐしたものをつかいます。
ここでは、三桧や楮の叩解前の筋を一本々丁寧に手で千切り、長いままの姿で繊維を漉き込んでいます。
ただし、一枚の紙をつくるのにも、気の遠くなるほど多くの筋を千切らなければなりません。根気と忍耐の要る地道な作業なのです。
長く太めの繊維の束は、重なり合い、絡み合って、自然素材ならではの素朴な風合いを演出してくれます。

芸艸紙・錫色・中染め



42-201-B

芸艸紙・錆青磁・中染め



42-204-B

芸艸紙・老緑・中染め



42-205-B

芸艸紙・生壁色・中染め



42-208-B

芸艸紙・胡桃染・中染め



42-215-B

芸艸紙・石板色・中染め



42-218-B

●この紙は、中間の濃さ(中染め)で染めたものを収録していますが、濃い色(深染め)で染めると繊維の流れが目立たなくなります。

●この紙は、長繊維の原料が多く、裁つ際に切り口ががまつれたようになることがあります。カッターの刃は常に新しいものをご使用ください。

水切り・黄朽葉・浅染め



43-207-C（和紙番号—色番号—明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅98cm × 丈186cm）
3×7（幅98cm × 丈205cm）

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際（82頁）
 - 染め色の指定について（221頁）
 - 細工貼りの作品例（200頁～）
 - 壁紙としてお使いの際（219・220頁）
 - 特注の加飾について（221頁）
 - 表面処理について（221頁）

漉き模様紙

水切り

水流紙の一種で、横縞の線模様が似ているため、すだれとも呼ばれています。
漉いたばかりの湿紙の上に、ジヨウロや連続して穴を開けたパイプに水を流しながら動かすと、水が落ちた部分の繊維が弾かれ、線や曲線の縞状の模様をつくります。このような大判の手漉きのすだれは、二人がかりで呼吸を合わせてつくりますが、直線の模様には微妙にゆがみができ、必ずしも平行な直線にはなりません。
ビニール壁紙のような機械的で均質な線とは違い、手づくりの線模様は、一枚ごとに趣に変化がでます。

水切り・錆青磁・浅染め



43-204-C

水切り・千歳茶・浅染め



43-206-C

水切り・芝翫茶・浅染め



43-209-C

水切り・胡桃染・浅染め



43-215-C

水切り・空五倍子色・浅染め



43-216-C

水切り・石板色・浅染め

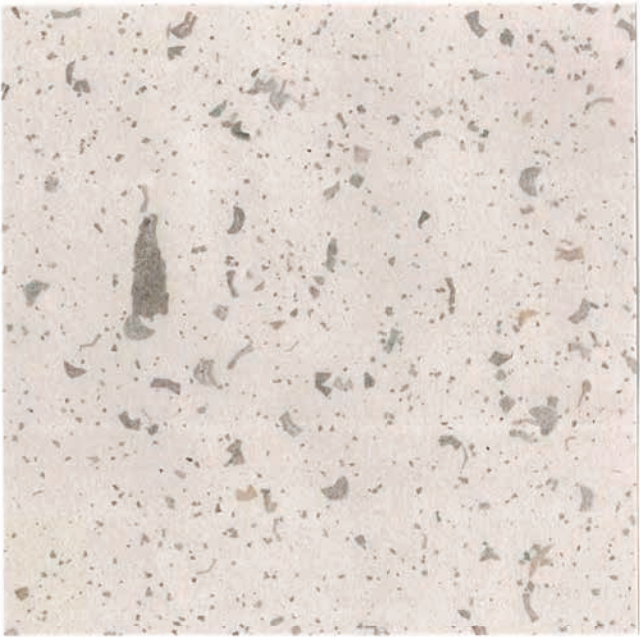


43-218-C

●手作りのため、横筋の線は水平な平行線とは限りません。従って模様のつながりやリピートはありません。

●横筋の太さや密度などはその都度違います。

有馬・石板色・浅染め



44-218-C（和紙番号—色番号—明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅98cm × 丈186cm）
3×7（幅98cm × 丈205cm）

※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

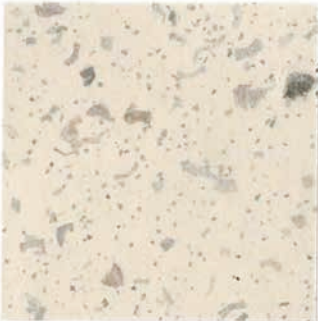
- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

漉き模様紙

有馬

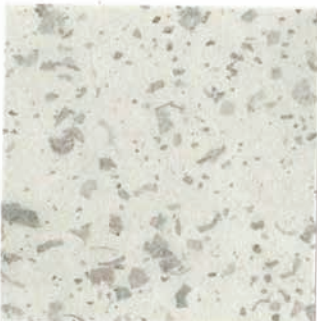
このような紙を「塵入り紙」とか「滓紙」「筋紙」などと呼びます。本来は、紙料をつくる工程で削ぎ落とされる、楮の表皮の黒皮（くろかわ）などが混入して漉かれた紙をさし、昔は、比較的廉価な紙として用いられました。しかし、その素朴な味が好まれ、黒皮だけでなく、さまざまなものが漉き込まれるようになりました。楮のほか、雁皮や三桧の黒皮、樹皮、そば殻、蘭草（ゆがら）、川苔などを漉き込んだものもあります。

有馬・黄朽葉・浅染め



44-207-C

有馬・錆青磁・浅染め



44-204-C

有馬・湊鼠・浅染め



44-203-C

有馬・鳩羽色・浅染め



44-217-C

有馬・代赭色・浅染め



44-210-C

有馬・芝翫茶・浅染め



44-209-C

翠雲紙・石板色・中染め



45-218-B (和紙番号一色番号一明度記号)

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
 3×6 (幅98cm × 丈186cm)
 3×7 (幅98cm × 丈205cm)

※上記以外の寸法も、特注制作いたします。詳しくは、お問い合わせください。

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

漉き模様紙

翠雲紙

(すいりんし)

金箔は細かく千切られ、雁皮や三椏の繊維とからませます。さらに、着色した繊維や、手らぎりの長い繊維などを用意し、ネリを適度に調合して流し込む紙料をつくります。この紙料を湿紙に流し込む際の早さや、角度、加えて、たね箱の巧みな操作が、雲の流れをさめます。溜め漉きの特徴を巧みに利用したもので、簀の上の水の流れと繊維の流れの変化が、紙面全体に流れる雲の文様をつくりだします。おのずと、一枚ごとに雲の流れが違ってきます。

翠雲紙・湊鼠・中染め



45-203-B

翠雲紙・黄朽葉・中染め



45-207-B

翠雲紙・芝翫茶・中染め



45-209-B

翠雲紙・代赭色・中染め



45-210-B

翠雲紙・灰紫・中染め



45-213-B

翠雲紙・胡桃染・中染め

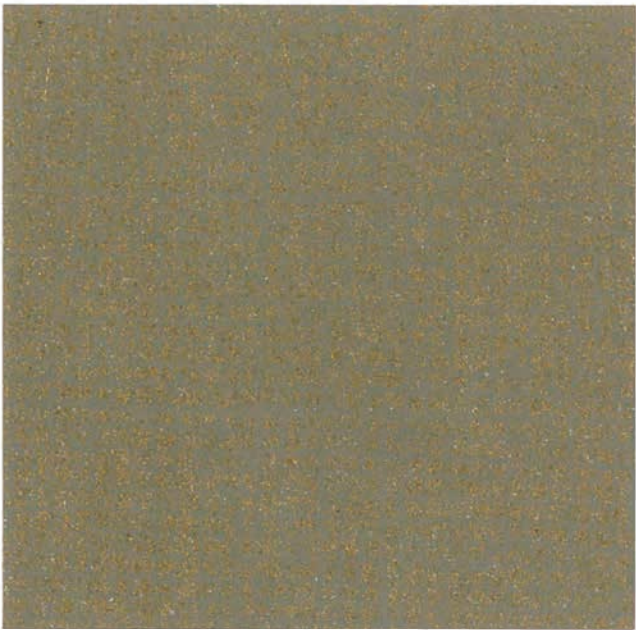


45-215-B

●原料を入れたたね箱から雁皮や三椏、金箔などを流し込む早さや角度、加えてたね箱の動きが、雲の流れつくります。(40・3頁写真参照) 見本帖では十分に表現できませんが、大きな流れを特徴とします。大判の実物は、ショールーム「からかみ屋」(227頁参照)でご覧になれます。

●雲の流れは1枚ごとに違います。予め、紙の並ぶ順序を決めてから、貼られることをお勧めします。

金布目・老緑・深染め



46-205-A（和紙番号—色番号—明度記号）

漉き模様紙

金布目（きんぬのめ）

手織りの布目を享した紗に、三極とともに金箔を流し込み、漉き合わせたものです。
布目のディテールを再現するために、金箔はあらかじめ細かくされています。ただし、布目の風合いを生かすには、粗過ぎても細か過ぎでもない、大ききにすることが肝要です。
手織りならではの、布目の微妙なほつれやねじれが、金箔の織り目を穏やかに演出します。

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
 3×6（幅98cm × 丈186cm）
 3×7（幅98cm × 丈205cm）

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
 ●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
 ●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

金布目・錆青磁・深染め



46-204-A

金布目・黄朽葉・深染め



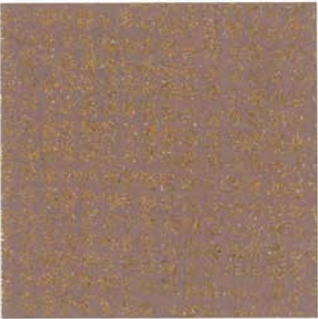
46-207-A

金布目・芝翫茶・深染め



46-209-A

金布目・葡萄色・深染め



46-212-A

金布目・灰紫・深染め



46-213-A

金布目・石板色・深染め



46-218-A

●布目をうつしていますので、糸目に曲がりがでることがあります。

麻生紙・黄朽葉・浅染め



47-207-C （和紙番号―色番号―明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅98cm × 丈186cm）
3×7（幅98cm × 丈205cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

漉き模様の紙

麻生紙（あそうし）

麻は、雁皮や楮とともに古代から和紙の原料としてつかわれてきました。
ことに、正倉院宝物の目録（国家珍宝帳など）のような重要な文書は白麻紙に記されています。
麻紙は今日でもつくられていますがおもに日本画などの書画用紙としてつかわれることが多いようです。
麻の繊維は強靱で長い繊維であるため、そのままでは和紙の原料になりにくく、数センチの長さに切断してからつかわれます。
ここでは、長い、ままでの繊維に三極を絡ませて個性的な麻紙に仕立ててみました。

麻生紙・芝翫茶・浅染め



47-209-C

麻生紙・千歳茶・浅染め



47-206-C

麻生紙・錆青磁・浅染め



47-204-C

麻生紙・石板色・浅染め



47-218-C

麻生紙・空五倍子色・浅染め



47-216-C

麻生紙・胡桃染・浅染め



47-215-C

●この紙は、最も淡い色（浅染め）で染めたものを収録していますが、濃い色（深染め）で染めると麻の繊維が目立ちにくくなります。

●この紙は、長繊維の原料が多く、裁つ際に切り口ががまつたようになります。カッターの刃は常に新しいものをご使用ください。

雲母摺り染め

本来、「からかみ」は「唐紙」と書き、

平安時代に唐の国から輸入した紙をさします。

それには木版により雲母で文様が摺られ、
当時からふすま紙としても使われました。

以来、「からかみ」は

ふすまの代名詞にもなるわけです。

ここでは、雲母摺りした「からかみ」を、

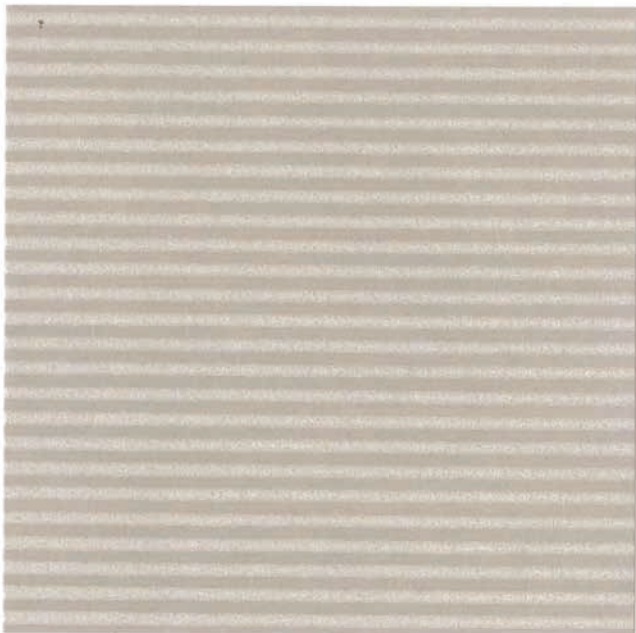
染料で染めつけたものを収録しました。

このような雲母摺りの意匠は多彩で、

それだけで一冊の見本帖となるほどです。

（本書の姉妹版「寄せ」参照）

千筋・鳩羽色・中染め



51-217-B（和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅 98cm × 丈186cm）
3×7（幅 98cm × 丈200cm）
4×6（幅120cm × 丈186cm）
4×7（幅120cm × 丈200cm）
5×6（幅135cm × 丈186cm）
5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

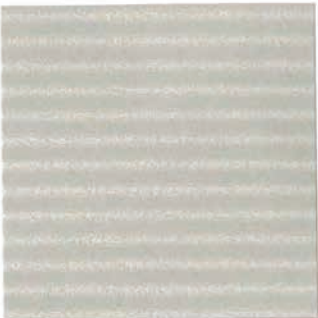
- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

雲母摺り染め

千筋（せんすじ）

横の縞模様を丁字とか筋と言います。線の太さで「五分丁字」や「一分筋」など名付けられています。
また、ここに収録したものは「千本丁字」とも呼ばれ、細かい丁字が数え切れぬほど多いことを意味しています。
筋の意匠は、単純さの中に、ピンと張りつめた整然さとおやかさが同居し、際立つてモダンな表現になります。

千筋・錫色・中染め



51-201-B

千筋・錆青磁・中染め



51-204-B

千筋・老緑・中染め



51-205-B

千筋・生壁色・中染め



51-208-B

千筋・胡桃染・中染め



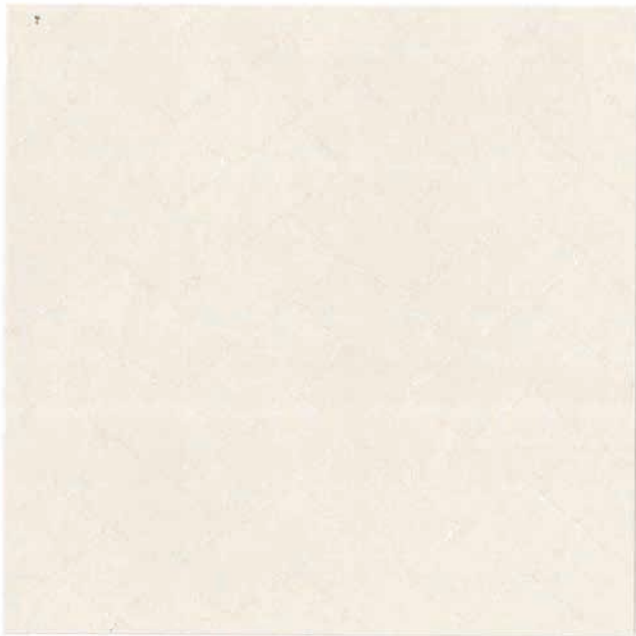
51-215-B

千筋・石板色・中染め



51-218-B

八重垣・千歳茶・浅染め



52-206-C（和紙番号―色番号―明度記号）

規格寸法	ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
	3×6（幅 98cm × 丈186cm）
	3×7（幅 98cm × 丈200cm）
	4×6（幅120cm × 丈186cm）
	4×7（幅120cm × 丈200cm）
	5×6（幅135cm × 丈186cm）
	5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際(82頁)

●染め色の指定について(221頁)

●細工貼りの作品例(200頁～)

●壁紙としてお使いの際(219・220頁)

●特注の加飾について(221頁)

●表面処理について(221頁)

雲母摺り染め

八重垣

幾重にも重なり合った垣根を八重垣と呼びますが、この言葉は「古今集」の序文の中に初見されます。
そこでは、「八雲たつ、出雲八重垣、妻ごめに、八重垣つくる、その八重垣を」の歌を、我が国で最初の短歌の例として紹介していますが、
本当のところは定かではありません。このような短歌形式のなりたちは、概ね、七世紀初頭と見なされているようです。

八重垣・錫色・浅染め



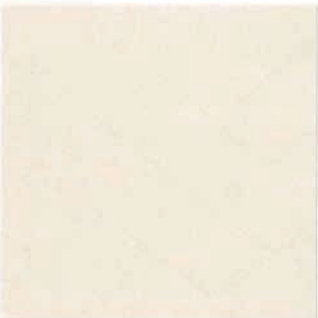
52-201-C

八重垣・錆青磁・浅染め



52-204-C

八重垣・生壁色・浅染め



52-208-C

八重垣・梅鼠・浅染め



52-214-C

八重垣・空五倍子色・浅染め



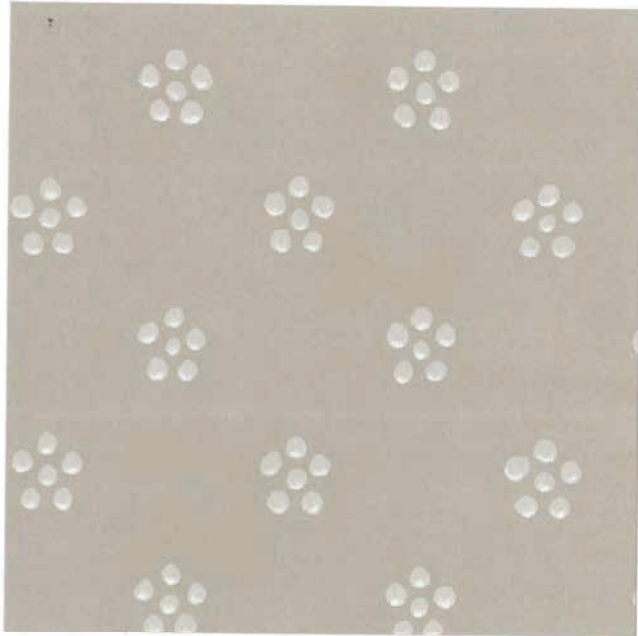
52-216-C

八重垣・石板色・浅染め



52-218-C

梅鉢・石板色・中染め



53-218-B（和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。

- 3×6（幅 98cm × 丈186cm）
- 3×7（幅 98cm × 丈200cm）
- 4×6（幅120cm × 丈186cm）
- 4×7（幅120cm × 丈200cm）
- 5×6（幅135cm × 丈186cm）
- 5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際(82頁)
 - 染め色の指定について(221頁)
 - 細工貼りの作品例(200頁～)
 - 壁紙としてお使いの際(219・220頁)
 - 特注の加飾について(221頁)
 - 表面処理について(221頁)

雲母摺り染め

梅鉢（うめばち）

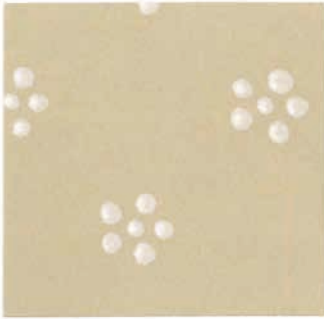
梅を題材とした文様は多彩で、八重梅、裏梅に丸梅、丸の中に一部をのぞかせたのぞき梅、上下に向かいあつた梅菱、折枝を文様化した梅枝の丸、好みをあらわす利休梅、光琳梅など数え切れないほどあります。ここでは、シンプルで愛らしい梅鉢を雲母摺りして染めてみました。

梅鉢・芝翫茶・中染め



53-209-B

梅鉢・黄朽葉・中染め



53-207-B

梅鉢・湊鼠・中染め



53-203-B

梅鉢・胡桃染・中染め



53-215-B

梅鉢・灰紫・中染め



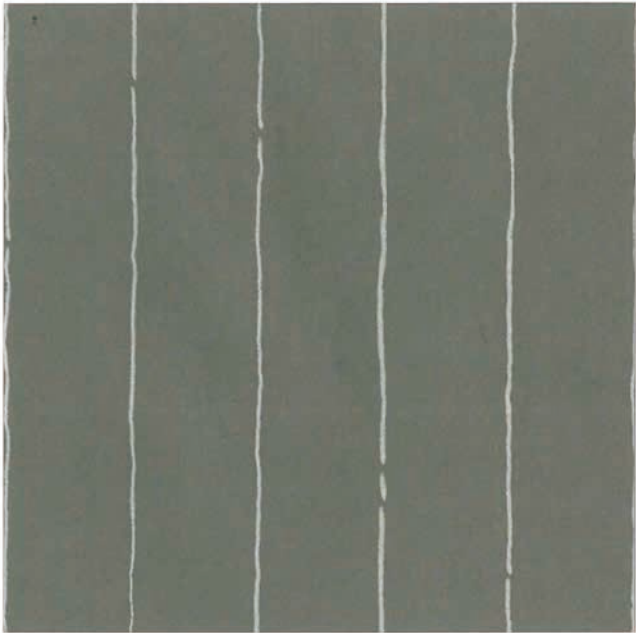
53-213-B

梅鉢・代赭色・中染め



53-210-B

文縞・石板色・深染め



54-218-A （和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法	ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
	3×6（幅 98cm × 丈186cm）
	3×7（幅 98cm × 丈200cm）
	4×6（幅120cm × 丈186cm）
	4×7（幅120cm × 丈200cm）
	5×6（幅135cm × 丈186cm）
	5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際(82頁)

●染め色の指定について(221頁)

●細工貼りの作品例(200頁～)

●壁紙としてお使いの際(219・220頁)

●特注の加飾について(221頁)

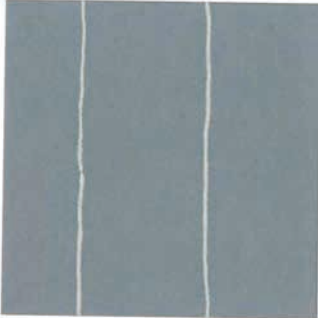
●表面処理について(221頁)

雲母摺り染め

文 縞（ふみしま）

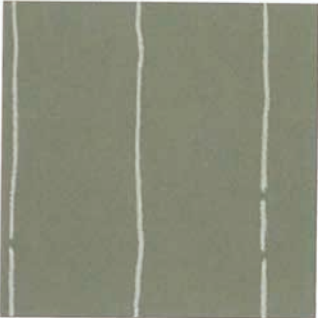
縞の持つ表情は素朴で明快であり、ていどない、美しさがあります。
もしかすると日本人の心ばえを最も素直に映したものかもしれません。
（しま）の名称は、南蛮船によってもたらされた織物に筋文様の織物が多く、これを「島物」とか「島渡り」と呼ばれたことから
名付けられたといわれます。ことに江戸時代には、代表的な庶民の意匠として袴や小袖などの文様に愛用されました。
ここに収録した縞は、所々で線を千切り、破れ縞として構成してみました。

文縞・二藍・深染め



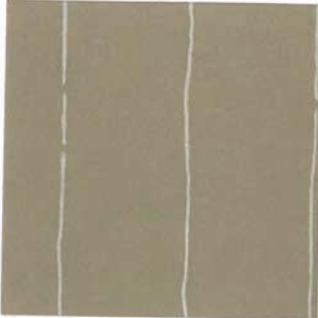
54-202-A

文縞・老緑・深染め



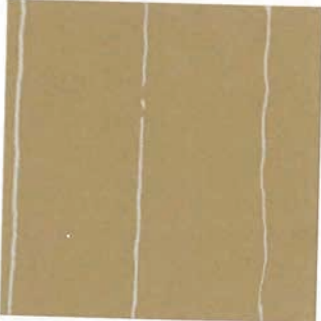
54-205-A

文縞・千歳茶・深染め



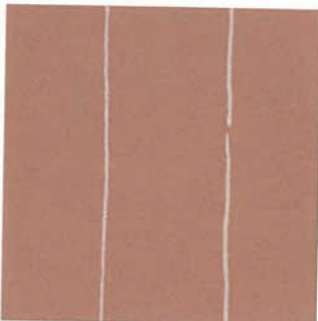
54-206-A

文縞・生壁色・深染め



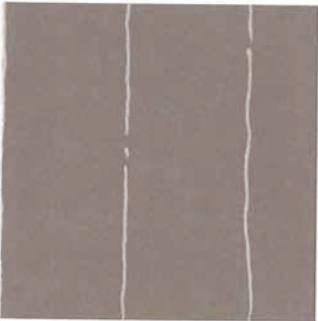
54-208-A

文縞・代赭色・深染め



54-210-A

文縞・梅鼠・深染め



54-214-A

松浪・黄朽葉・浅染め



55-207-C（和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅 98cm × 丈186cm）
3×7（幅 98cm × 丈200cm）
4×6（幅120cm × 丈186cm）
4×7（幅120cm × 丈200cm）
5×6（幅135cm × 丈186cm）
5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際(82頁) ●染め色の指定について(221頁)
●細工貼りの作品例(200頁～) ●壁紙としてお使いの際(219・220頁)
●特注の加飾について(221頁) ●表面処理について(221頁)

雲母摺り染め

松浪（まつなみ）

青海波の文様は、九世紀ごろ中央アジアのトルファン地方で生まれたと言われます。シルクロードを経由して日本に渡来し、波の文様としてつかわれてきました。また、舞楽では、青海波、静海波とも書き、舞楽装束の華麗な意匠としても知られています。ここでは松葉の文様で表現していますが、所々に配した折れ松葉が、単調な割付文様のアクセントになっています。

松浪・錆青磁・浅染め



55-204-C

松浪・千歳茶・浅染め



55-206-C

松浪・芝翫茶・浅染め



55-209-C

松浪・胡桃染・浅染め



55-215-C

松浪・空五倍子色・浅染め



55-216-C

松浪・石板色・浅染め



55-218-C

檜垣・石板色・浅染め



56-218-C （和紙番号一色番号一明度記号）

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。
3×6（幅 98cm × 丈186cm）
3×7（幅 98cm × 丈200cm）
4×6（幅120cm × 丈186cm）
4×7（幅120cm × 丈200cm）
5×6（幅135cm × 丈186cm）
5×7（幅135cm × 丈200cm）

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

- 《参 照》 ●この頁にない染め色をご希望の際（82頁） ●染め色の指定について（221頁）
●細工貼りの作品例（200頁～） ●壁紙としてお使いの際（219・220頁）
●特注の加飾について（221頁） ●表面処理について（221頁）

雲母摺り染め

檜垣（ひがき）

点描による割付文様を絞小紋とも呼びます。更紗などでは、この無数の点はひとつひとつ孔を開けた型紙を用いて染めつけます。型紙は、錐彫り、変彫り、引彫り、道具彫りなどの手法で模様が彫られますが、例えば、錐彫り小紋の最も細微な極絞（ごくさめ）などは、一寸角（二㎝角）に九十個近い孔を彫らなければなりません。まさに、職人芸の極みと言えます。

檜垣・湊鼠・浅染め



56-203-C

檜垣・錆青磁・浅染め



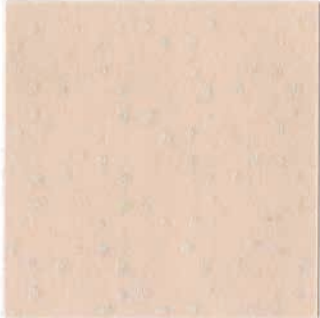
56-204-C

檜垣・黄朽葉・浅染め



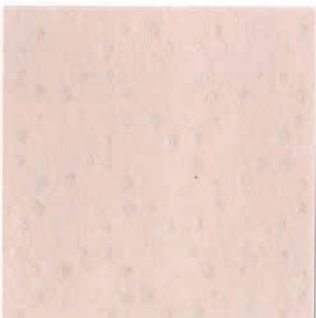
56-207-C

檜垣・芝翫茶・浅染め



56-209-C

檜垣・代赭色・浅染め



56-210-C

檜垣・鳩羽色・浅染め



56-217-C

鳥の子

本来は生漉きの雁皮紙をさし、
その色合いが鶏卵の殻の
淡黄色に似ているところから

「鳥の子」と名付けられたようです。
その無地の肌合いは、
雁皮独特の柔らかい光沢を持ち、
和紙を代表するものです。

また、三極を使つた鳥の子も
雁皮紙とともにその優しい紙肌から、
ふすまはもとより写経用紙、
詠草料紙など古来よりさまざまな用途に
用いられてきました。

三極鳥の子・黄朽葉・浅染め



81-207-C（和紙番号—色番号—明度記号）

規格寸法	ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。			
	3×6（幅96cm × 丈186cm）	4×6（幅120cm × 丈186cm）		
	3×7（幅96cm × 丈205cm）	4×7（幅120cm × 丈205cm）		
	3×8（幅96cm × 丈240cm）	5×6（幅135cm × 丈186cm）		
	3×9（幅96cm × 丈275cm）	5×7（幅135cm × 丈205cm）		

※上記以上の丈長判も可能です。

防火 1 級紙壁紙・からかみ屋FP

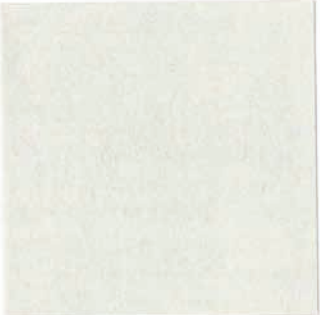
- 《参 照》
- この頁にない染め色をご希望の際 (82頁)
 - 染め色の指定について (221頁)
 - 細工貼りの作品例 (200頁～)
 - 壁紙としてお使いの際 (219・220頁)
 - 特注の加飾について (221頁)
 - 表面処理について (221頁)

鳥の子

三極鳥の子

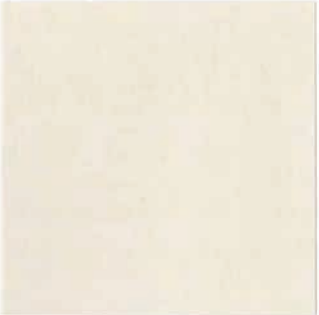
機械漉き鳥の子の最高級品です。原料も厳選した雁皮を豊富に使い、特別な抄紙機でつくります。抄紙の速度は、分速一乃至二メートルと桁外れに遅く、カタツムリと競争できるほどです。これは世界でも希な性能と言えます。このような極めて低速な抄紙は、原料の繊維を縦横に絡ませることとなり、限りなく手漉きにちかい肌合いをつくることとなります。近年、和紙の原料である韃皮繊維は国内産のもの入手が容易ではなく、ほとんどが廉価な南方産の輸入原料に依存する傾向にあります。当然のことながら、原料を育成する気候風土の相違は、和紙の品質や肌合いに大きな影響を与えます。ここでは、原料の三極はすべて良質な国内産のものだけに、こだわり、三極本来のやわらかな光沢をもつ鳥の子に仕立ててみました。

三極鳥の子・錆青磁・浅染め



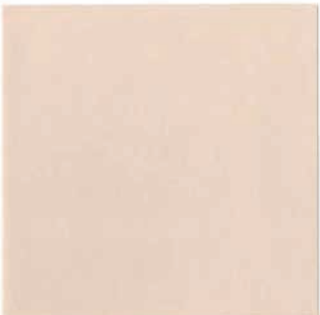
81-204-C

三極鳥の子・千歳茶・浅染め



81-206-C

三極鳥の子・芝翫茶・浅染め



81-209-C

三極鳥の子・胡桃染・浅染め



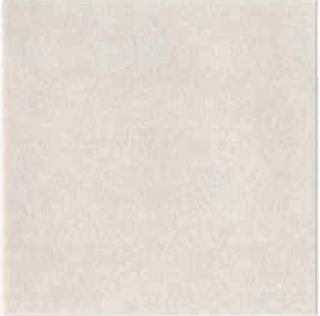
81-215-C

三極鳥の子・空五倍子色・浅染め



81-216-C

三極鳥の子・石板色・浅染め



81-218-C

●この鳥の子は3層漉きで、最も表の層は、三極(50%)とパルプ(50%)で混抄し、下地の層は、マニラ麻(70%以上)を主につかっています。このため三極独特の質感が染め色に反映して、次頁の「葉染め鳥の子」の染め色とは微妙に違いがでることがあります。

●三極やマニラ麻は極めて上質な韃皮繊維です。一般の和紙に比べると、乾く際の縮み(引き)が強く、施工が難しくなります。組子を含む下地構成や下貼り材料にも注意してください。

栞染め鳥の子

染め紙は古来より日本人の生活にとけ込み、天平時代や奈良時代の華やかな染め紙も正倉院に保存されています。平安時代になると「うすよう」と呼ばれる染め紙が紙屋院（かみやいん）で漉かれ、宮廷を彩ります。

それは、源氏物語や枕草子、宇津保物語など、枚挙にいとまがないほど多くの作品の中で、その美しさを讃えられ、歌われて、いかに、清少納言の好み色は、「薄様（うすよう）色紙は、白き、むらさき、赤き、刈安染、青きもよし」（枕草子）とあります。

ここでは、紙表に原料の三極や麻の繊維の流れを生かして、わずかですが華やかな表情をつけてみました。

左側の頁には、五十四色の染料で染め付けた鳥の子を収録しています。同時に本書「しおり草」に収録したすべての和紙の染め色見本でもあります。日本の伝統色の中から十八色の色相を選び、それぞれの色を、深染め・中染め・浅染めの三段階の明度に染め分けてみました。

和紙の染め色は大変微妙で、ほんの少しの紙料の調合具合や紙の厚薄などの差で風合いに違いがでますし、染め付けの際の染料の温度や気温、湿度などでも色相や明度に影響がでます。厳密には一枚ごとに色が異なるともいえます。

原料の三極は、すべて国内産のものをつかっています。

左頁、扉の白い紙は、栞染め烏の子の晒し紙です。

規格寸法 ご注文の際は品番の次に、下記の寸法を指定してください。

3×6 (幅98cm × 丈186cm)	4×6 (幅120cm × 丈186cm)
3×7 (幅98cm × 丈205cm)	4×7 (幅120cm × 丈205cm)
3×8 (幅98cm × 丈240cm)	5×6 (幅135cm × 丈186cm)
3×9 (幅98cm × 丈275cm)	5×7 (幅135cm × 丈205cm)

※上記以上の丈長判も可能です。

防火1級紙壁紙・からかみ屋FP

【参 照】 ● 染め色の指定について(221頁)
● 細工貼りの作品例(200頁～) ● 壁紙としてお使いの際(219・220頁)
● 特注の加飾について(221頁) ● 表面処理について(221頁)

- この鳥の子は2層流きで、表の層は三極(5%)、マニラ麻(35%)と、バルブを混抄しています。
このため、靱皮繊維ならではの柔らかな肌合いと優美な光沢をつくります。

しおり草
「染め色」

錫	二	湊	鑄	老	千	黃	生	芝	代	緋	葡	灰	梅	胡	空	鳩	石
青	歲	朽	壁	翫	赭	退	萄	桃	五	倍	子	羽	板				
色	藍	鼠	磁	綠	茶	葉	色	茶	色	色	色	紫	鼠	染	色	色	色

82-200

葉染め鳥の子・雪白・晒し紙

細工貼り

ふすまの裾に染め紙を貼るだけでも、色合いによつては小粋にもなり、侘びた佇まいにもなります。

また、汚れやすい引き手まわりに、長方形の染め紙を貼る

「引き手さわり」もよく見受けられます。

このように、一枚のふすまに

色や質感のちがう和紙を貼り分けることを、

「細工貼り」とか「貼りませ」と呼びます。

単純な手法ですが、空間に与える影響は計りしれません。

それだけに、素材となる和紙の色数や

表情の豊富さがデザインの幅を広げます。

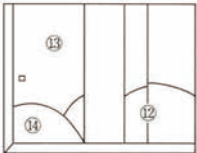
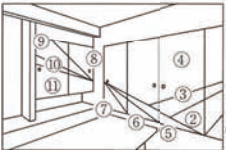
ことに同系色の濃淡の配色などは、落ち着いた雰囲気を醸し出します。

さらに和紙の肌合いの表情を組み合わせると、

大変個性的な貼り分けのデザインをつくることができます。

ここでは、さまざまな配色のレイアウトを収録し、

染め紙の効果的な使い方を提案いたします。



細工貼り写真の詳しい発注指定記号

N邸 客間・間仕切り

- ①有馬・空五倍子色・深染め (44-216-A)
- ②有馬・空五倍子色・中染め (44-216-B)
- ③有馬・空五倍子色・浅染め (44-216-C)
- ④雲肌・黄朽葉・浅染め (31-207-C)
- ⑤花朧・老緑・中染め (32-205-B)
- ⑥花朧・老緑・浅染め (32-205-C)
- ⑦花朧・黄朽葉・中染め (32-207-B)

N邸 客間・吊押入

- ⑧花朧・黄朽葉・中染め (32-207-B)
- ⑨花朧・老緑・浅染め (32-205-C)
- ⑩花朧・老緑・中染め (32-205-B)
- ⑪雲肌・黄朽葉・浅染め (31-207-C)

S邸 居間・間仕切り

- ⑫水揉み・生壁色・中染め (21-208-B)
- ⑬有馬・黄朽葉・浅染め (44-207-C)
- ⑭あられ肌・代赭色・深染め (34-210-A)

S邸 居間・地袋

- ⑮銀梨地・梅鼠・深染め (36-214-A)
- ⑯金梨地・黄朽葉・中染め (35-207-B)

S邸 居間・間仕切り

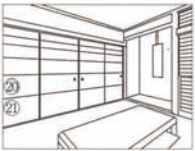
- ⑰栗染鳥の子・黄朽葉・浅染め (82-207-C)
- ⑱銀梨地・梅鼠・深染め (36-214-A)
- ⑲金梨地・黄朽葉・中染め (35-207-B)

S邸 客間・間仕切り

- ⑳檜垣・千歳茶・浅染め (56-206-C)
- ㉑雲母揉み・黄朽葉・浅染め (22-207-C)

N邸 リビング・間仕切り

- ㉒千筋・鳩羽色・浅染め (51-217-C)
- ㉓雲肌・黄朽葉・深染め (31-207-A)
- ㉔雲肌・黄朽葉・中染め (31-207-B)
- ㉕小判簾・鳩羽色・深染め (13-217-A)

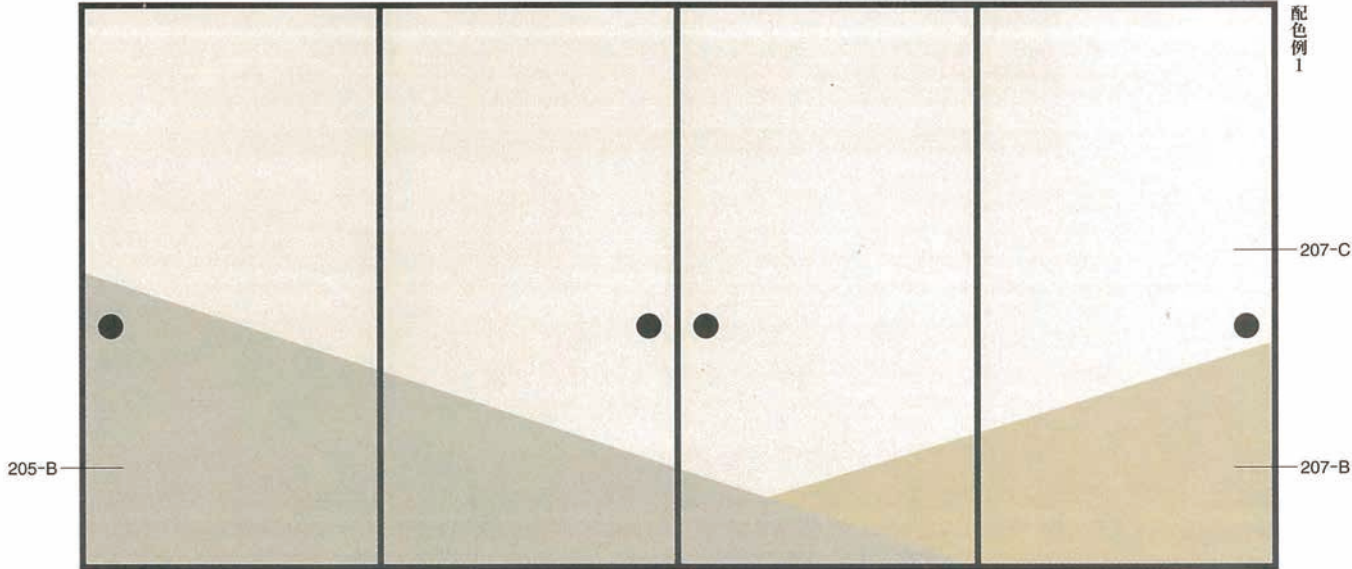


細工貼り 四枚立て

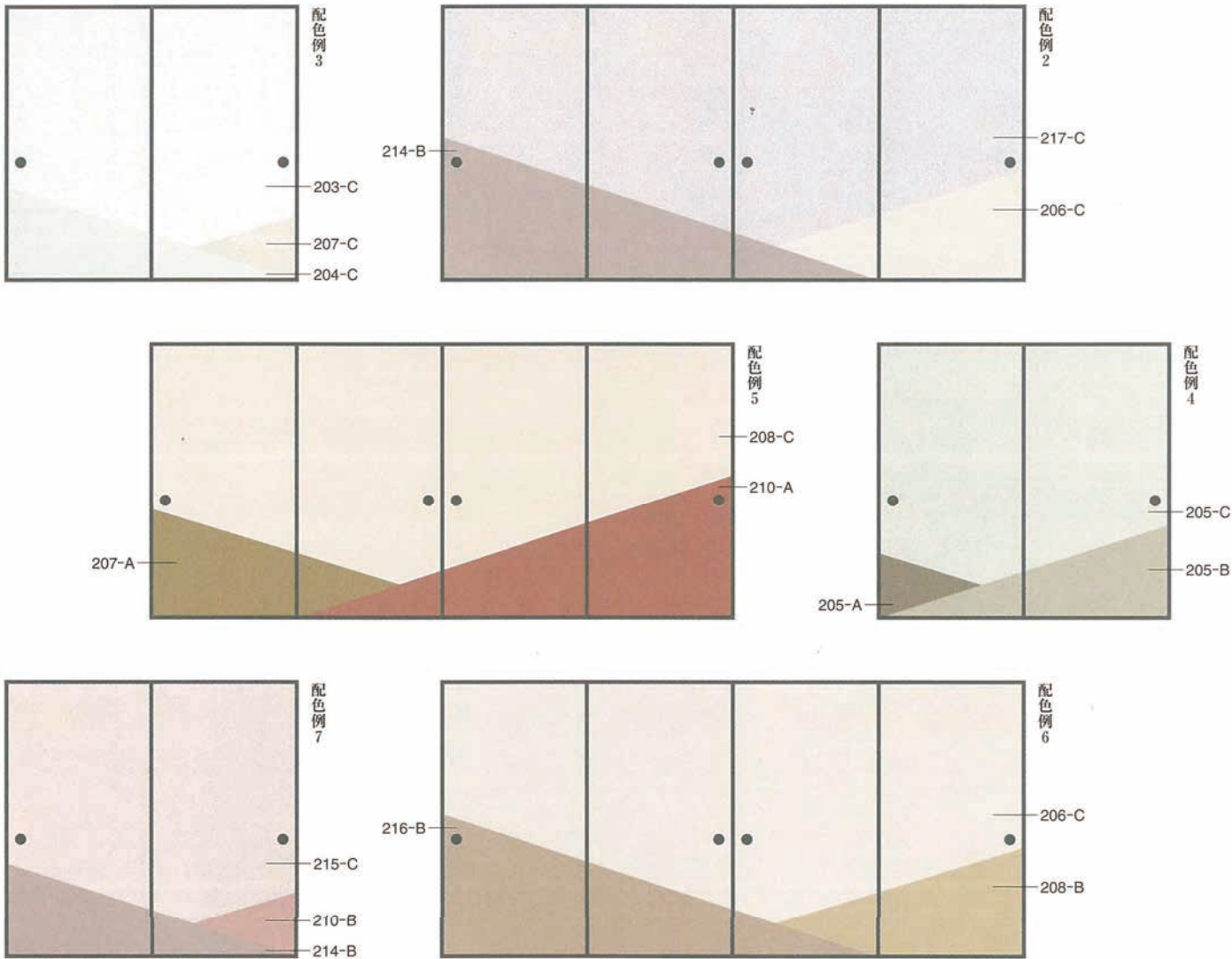
何枚ものふすまに連続した絵模様を描くようになつたのは、安土・桃山のころからとされています。それは、壮麗な城郭建築のもたらしたもののかもしれませんが、当時の画家にとっては破天荒な作品づくりの場であつたことでしょう。一枚一枚が独立した画面展開の構成に代わつて、一部屋ごとに画題が定められ、場合によると数十枚につながる意匠が作られたと言います。

今日でも間仕切りなどには、四枚立てのふすまはよく見かけられますが、ふすまの模様は、同一のものが四枚並んだ構成がほとんどです。インテリア素材として、四枚のふすまは十分な大きさを満たしていますが、そこにつながりのあるデザインを手えることで、その空間に与える影響はさらに大きくなります。

大胆なデザインでも、繊やかな配色にすると飽きのこないものにもなりますし、単純なレイアウトでも色使いによっては、個性的な意匠にもなります。



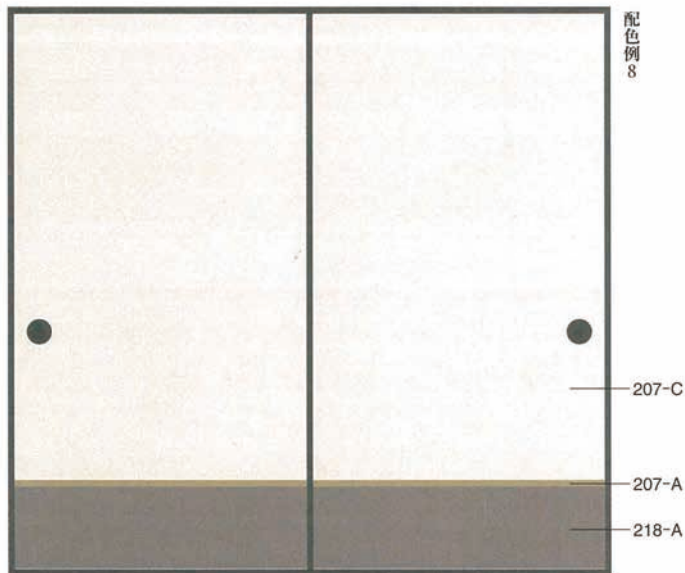
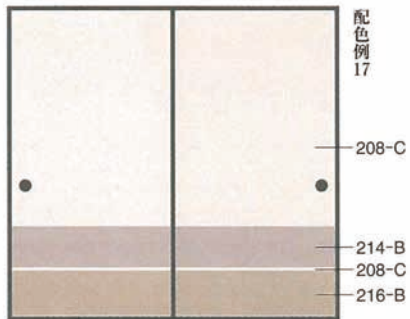
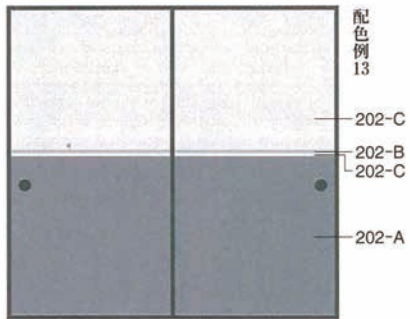
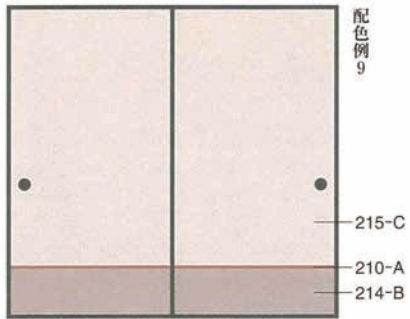
※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。



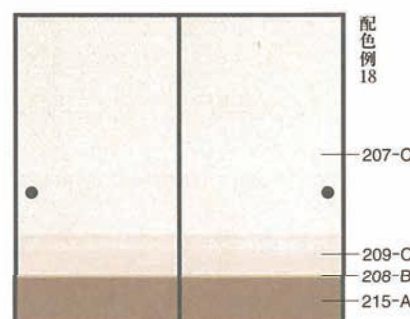
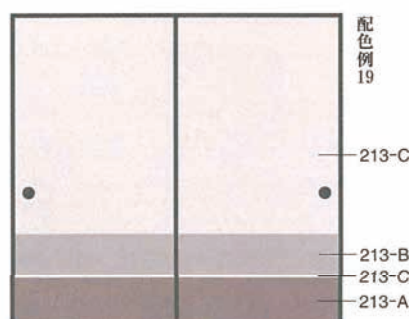
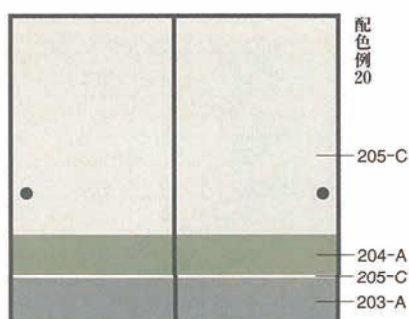
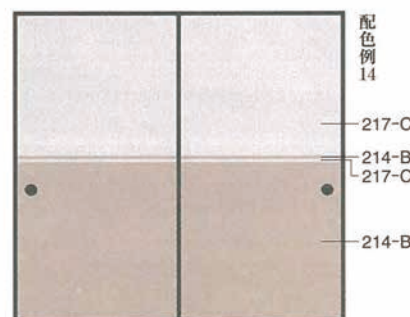
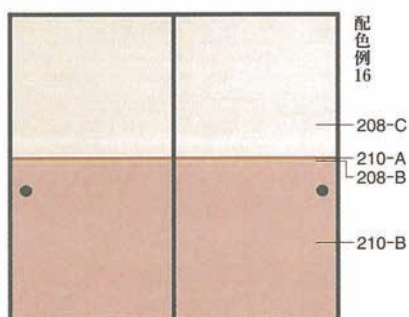
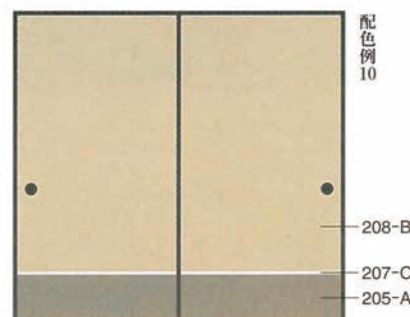
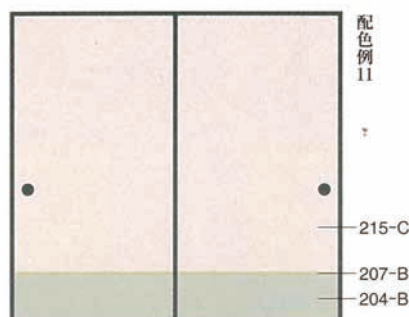
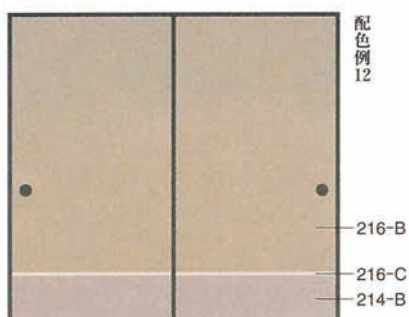
※上図は配色例です。ご注文の際は和紙の種類もあわせてご指定ください。《参 照》細工貼りのふすまについて (220頁)

細工貼り
裾模様

概ね、引き手より下の部分に模様があるものと言いますが、日常的な言葉としては、着物の裾模様が身近かもしれません。江戸後期には、女性の年齢で、着物の裾模様の高さが決められたこともあるそうです。因みに、猿七寸(21㎝)、若妻五寸(15㎝)、中年三寸(9㎝)と記されています。
ふすまでも裾模様の丈はさまざまですが、特別の規則はありません。強いて上げるとすれば、狭い部屋には一尺(30㎝)程度の低い丈の裾模様が空間を広く見せるようです。既製品のふすまは二尺(60㎝)未満のものがほとんどですが、引き手より高いものなども個性的な印象を与えます。

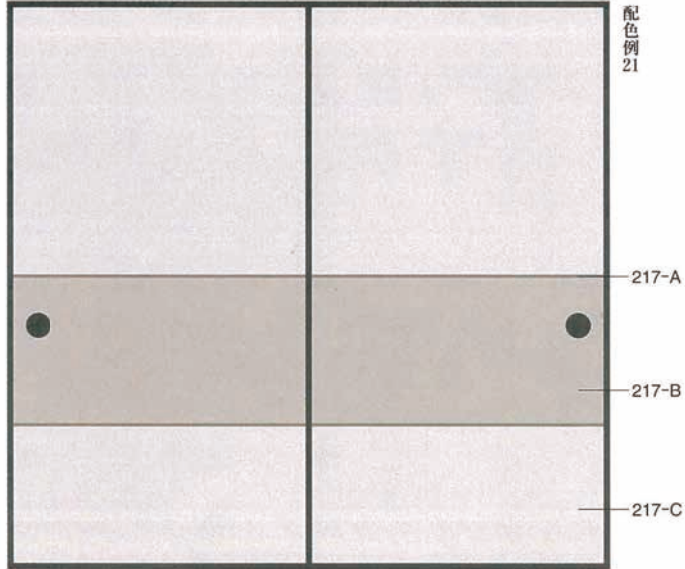
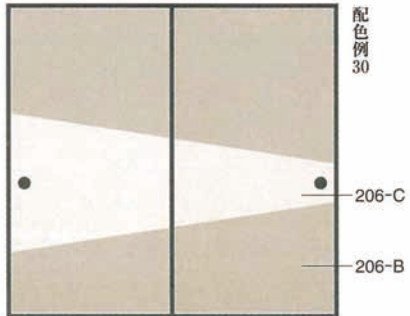
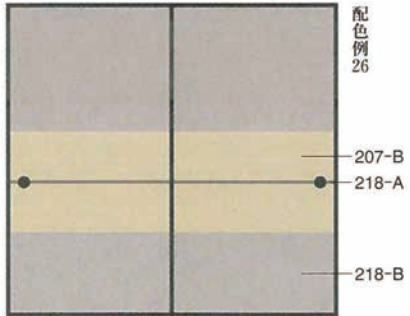
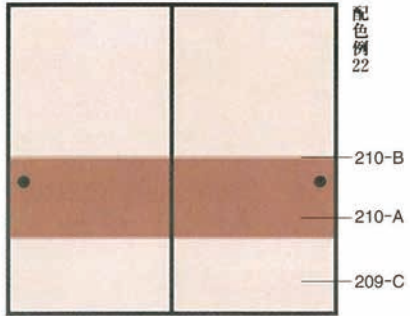


※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

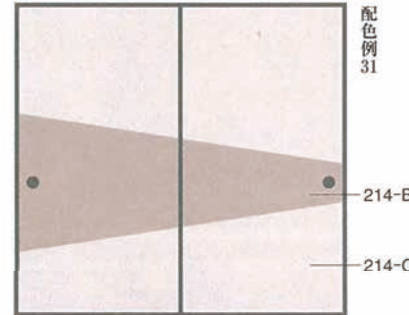
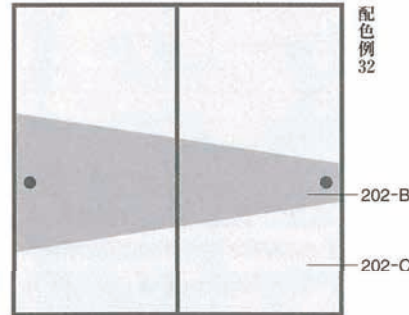
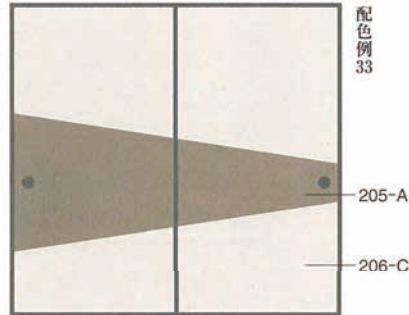
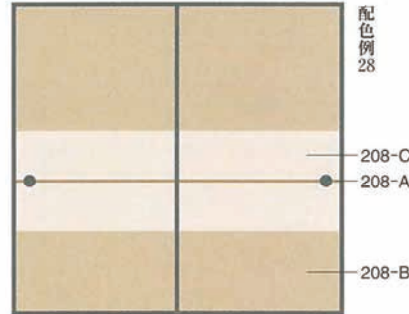
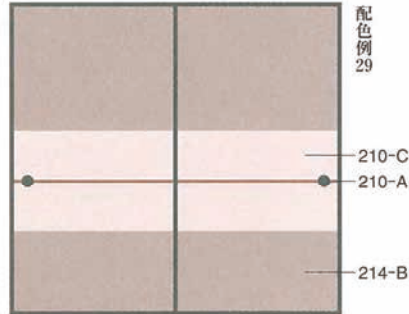
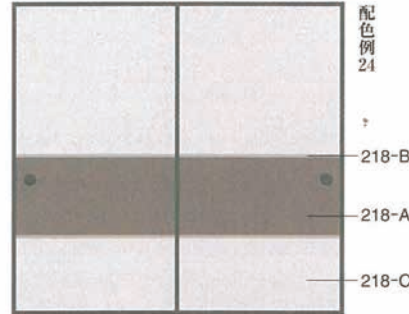


細工貼り
帯模様

この模様は文字通り帯のように貼る模様ですが、
使い古した帯地などを貼ることなども、その部屋
の主な好みの向きを偏らせません。
また、代表的な帯模様は、引き手を中心とした帯
幅七寸（21㎝）の紺色や茶色の帯で、引き手帯とも
呼ばれています。
帯模様は単純なだけに収まりやすく使いやすいか
たからです。配色のコントラストや帯幅や高さを変
えることでさまざまなバリエーションを楽しむこ
ができます。

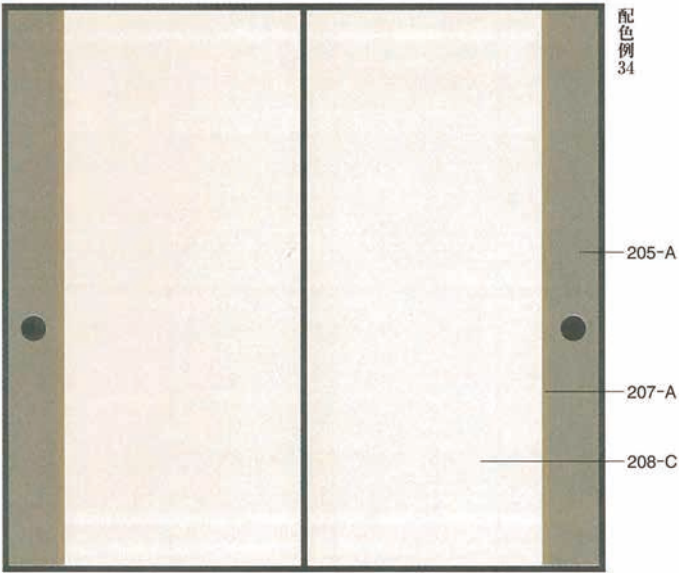
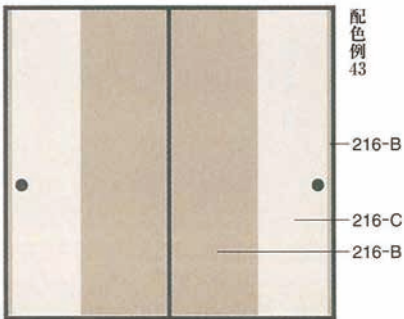
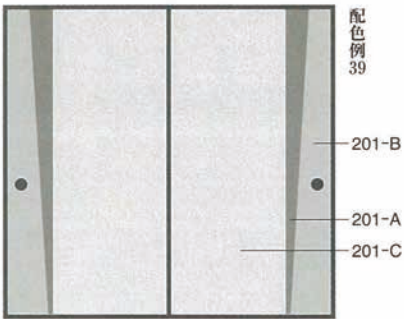
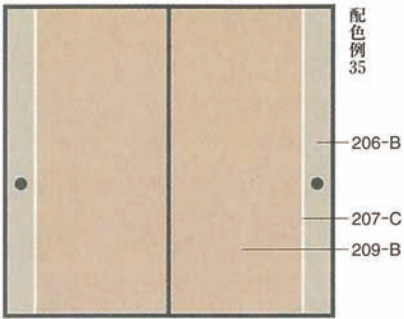


※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

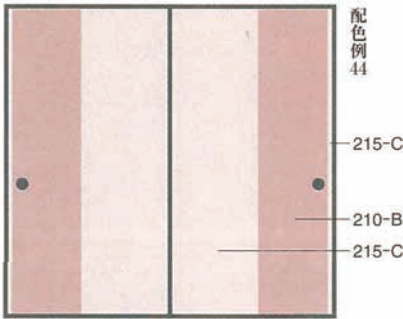
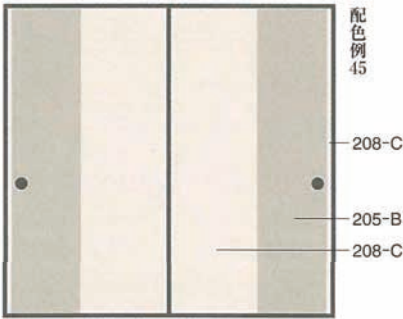
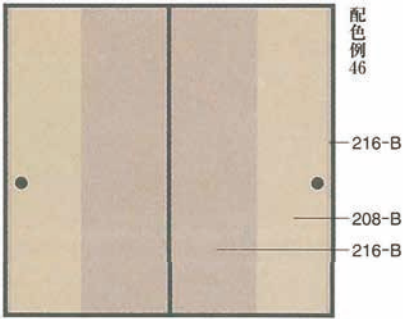
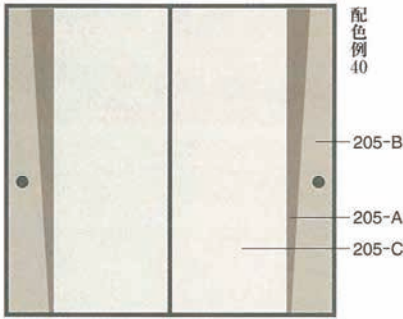
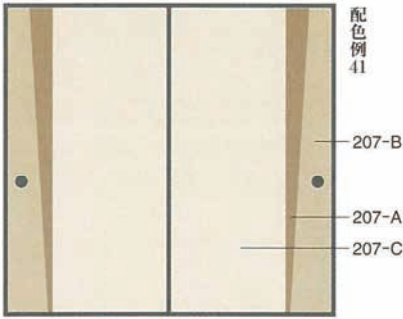
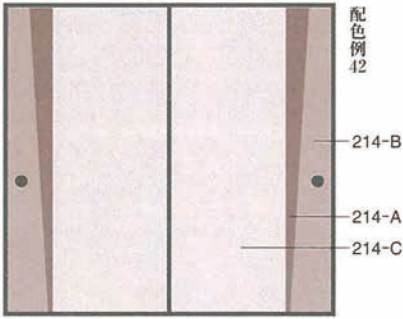
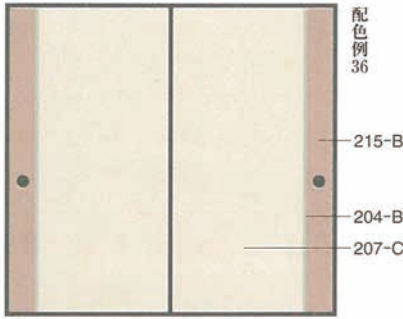
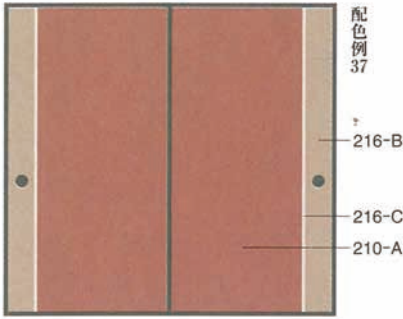
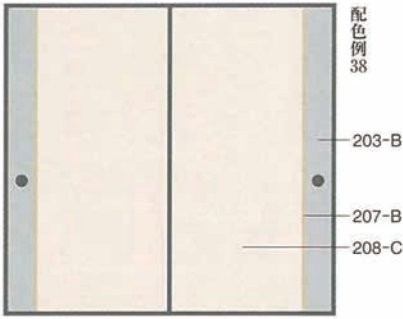


細工貼り
袖模様

引き手の部分に縦に細工貼りますので、引き手
さわりの一種とも言えます。
左右両端に付むような風情からか、品のある小粋
なものがよく見かけられます。染め色の違いだけ
でなく、雲母摺り染めなどを貼ることも一興です。
縦長の袖に横縞の「千筋」などもおもしろい表情を
作ります。
ふすまが四枚立ての袖模様は、中央の二枚の袖が
連続するため、染め色によっては強い印象を与える
ことがあります。染め色を周囲になじむように優
しくするか、場合によっては、中央の二枚は袖貼り
を止めて、左右両端の袖模様だけにすることもあ
ります。



※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

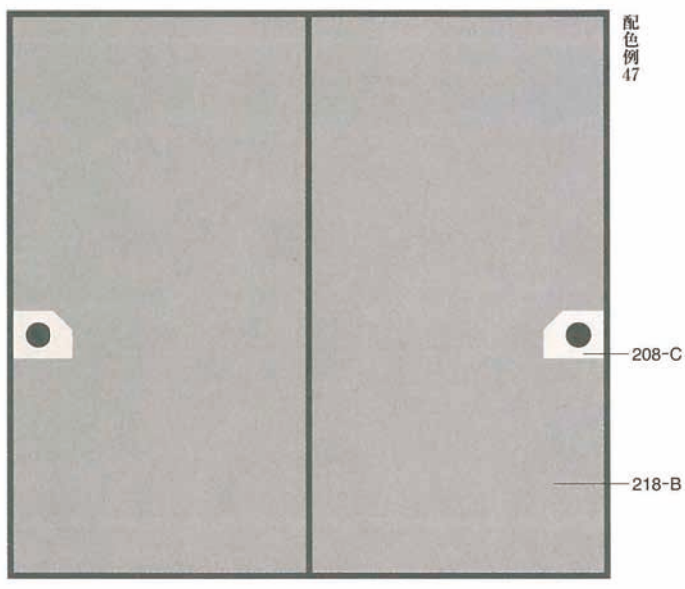
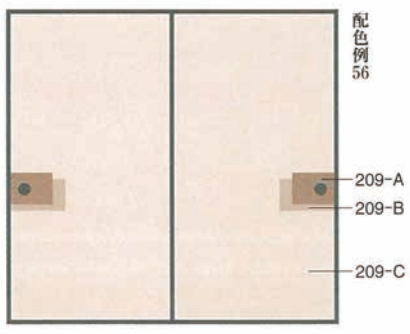
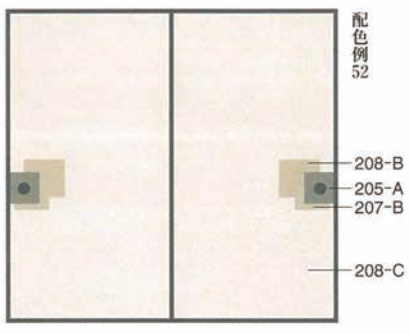
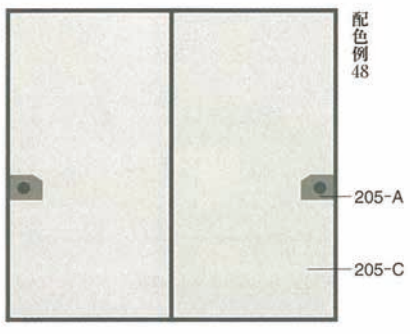


※上図は配色例です。ご注文の際は和紙の種類もあわせてご指定ください。《参 照》細工貼りのふすまについて (220頁)

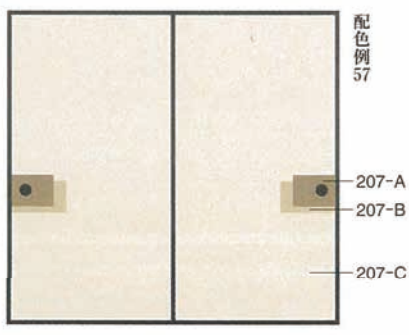
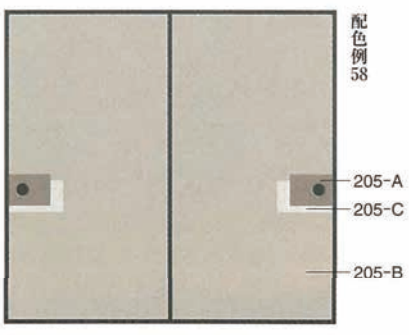
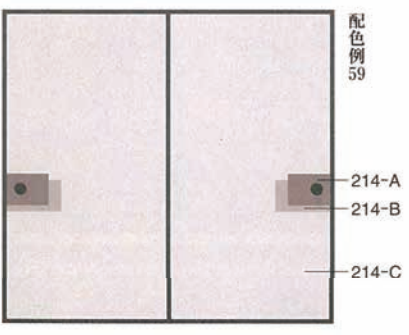
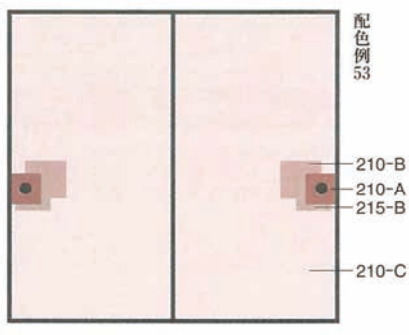
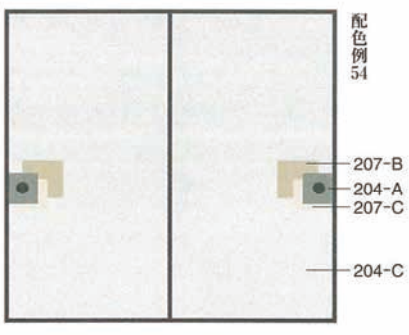
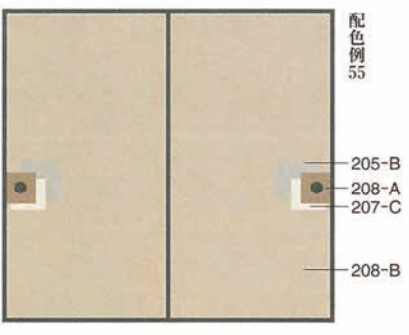
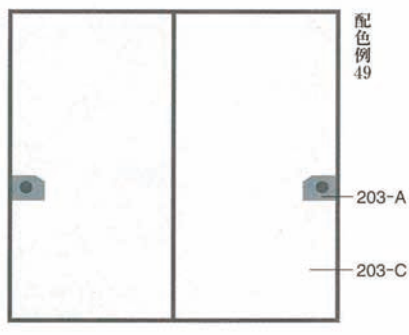
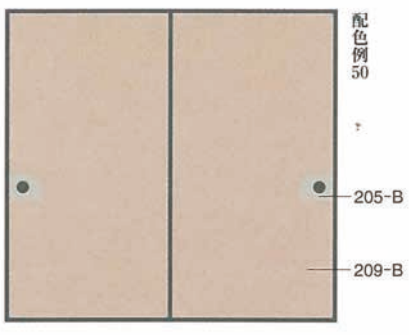
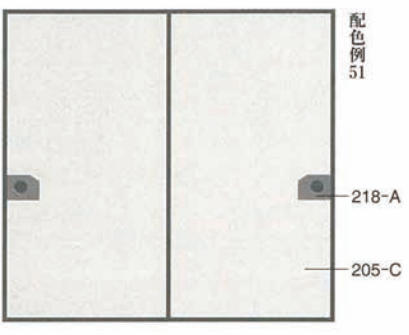
細工貼り
引き手さわり

手さわりの汚れを防ぐことを目的とした大変実用的なデザインなのですが、現代の生活空間ではモダンな意匠に生まれ変わるかもしれません。ほんの少しの部分だけに、思い切り高価な和紙を用いたり、極端に質感の異なる和紙を貼ることもできます。

また、黒漆呂色磨きの丸引き手に、緋退色（ひざめいろ）長方形の染め紙貼りなどと、引き手と和紙のコーディネートを楽しむこともできます。



※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

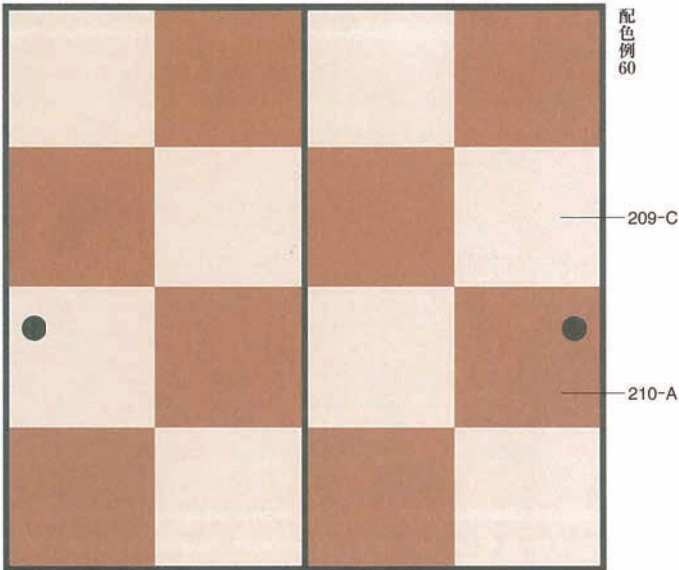
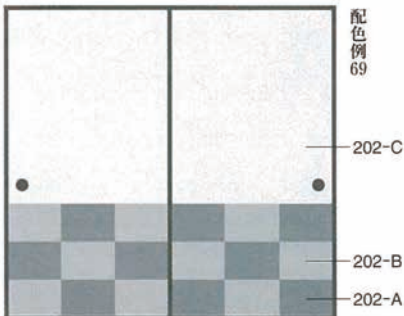
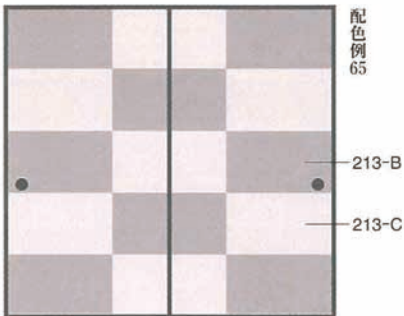
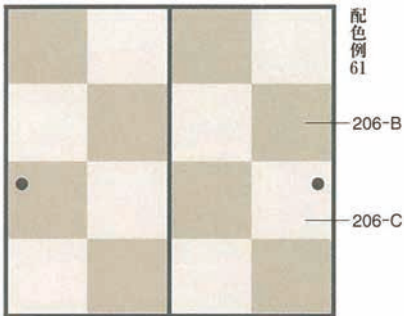


細工貼り
市松模様

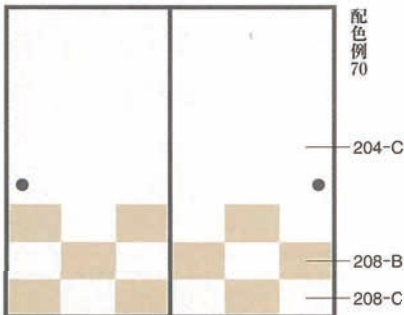
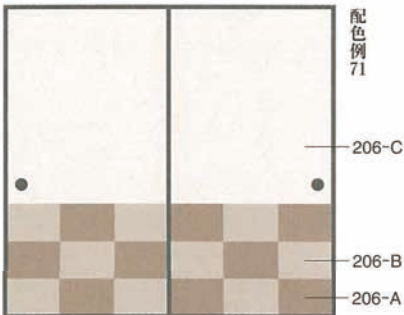
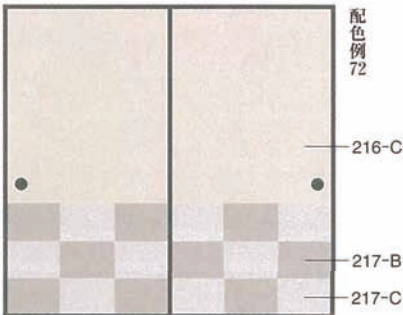
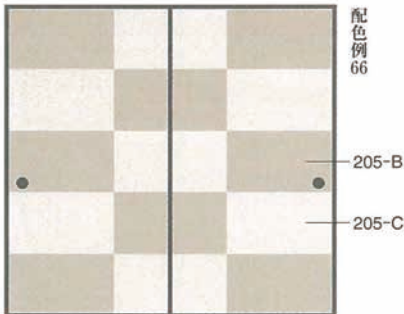
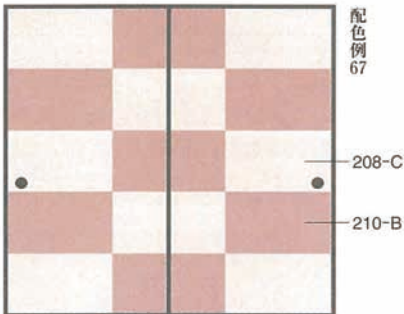
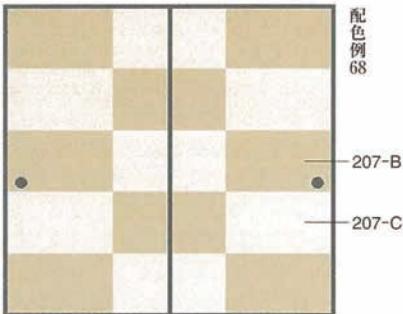
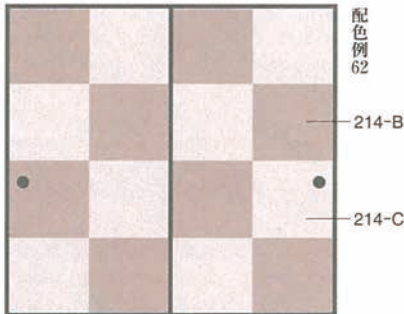
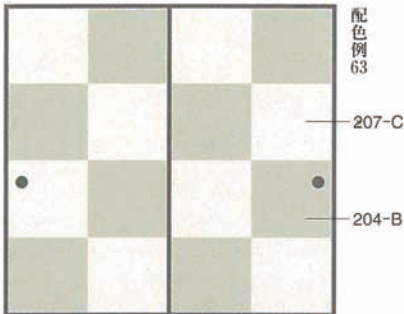
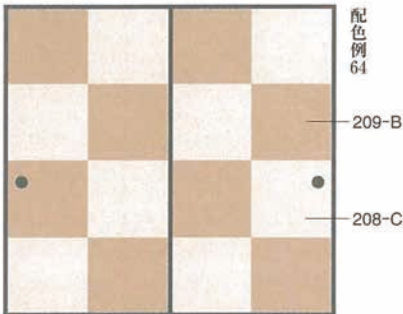
桂離宮・松琴亭一ノ間の市松模様のふすまは、代表的な細工貼りの作例です。そのモダンで大胆な配色や構成は、桂離宮の中でもひととき目を引く存在です。

また、木版雲母摺りの一寸角（3㎝）の小さな市松模様は、整然とした美しさがあります。しかし、このように細かな市松の細工貼りは、施工する上で技術的にも困難ですし、あまりにも手間がかかり高価になります。むしろ、木版の雲母摺りなどで、好みの摺り色を指定して制作することをお勧めします。

（本書の姉妹版「季節せ」参照）
ここでは25㎝以上の市松を想定してデザインいたしました。



※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

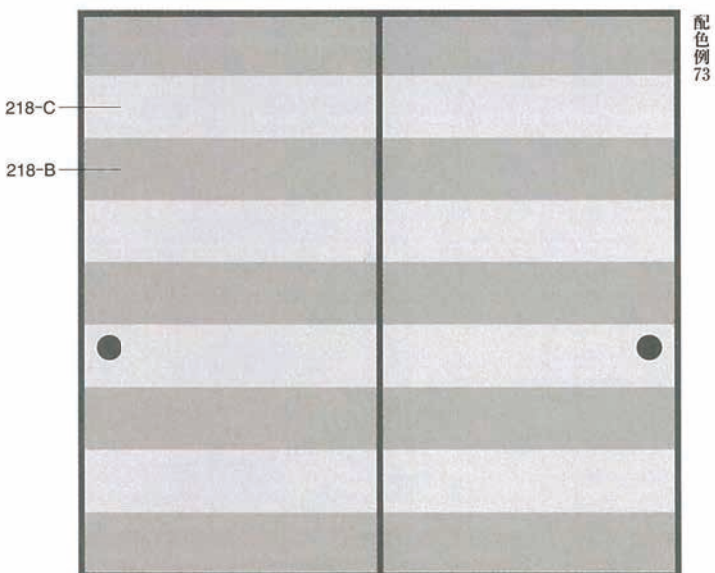
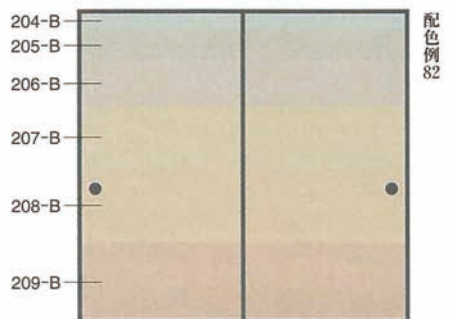
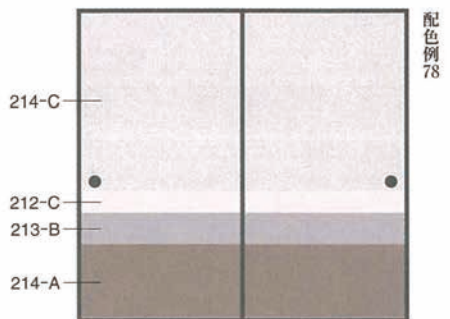
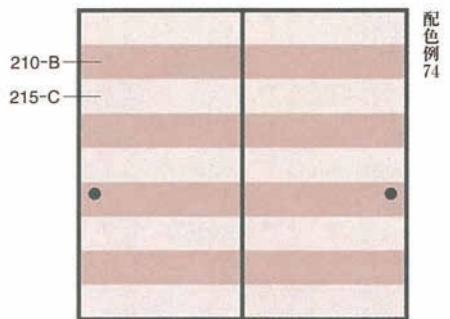


細工貼り
— かわり模様・壺

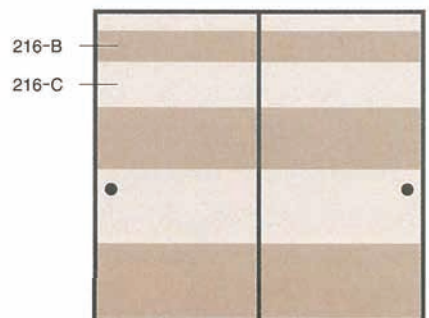
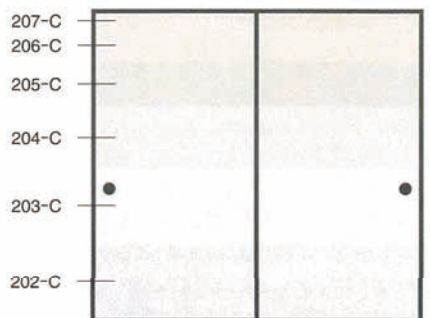
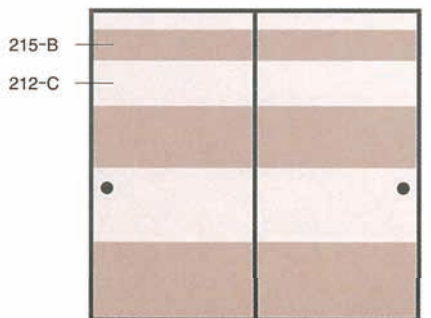
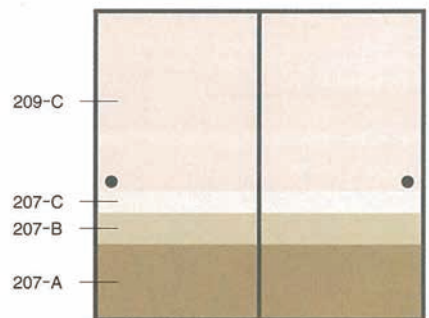
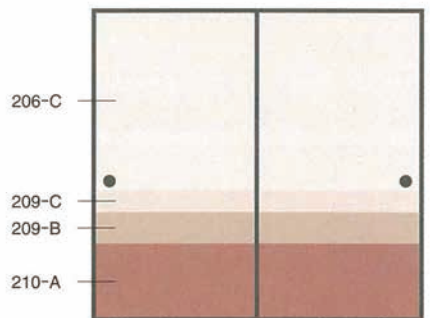
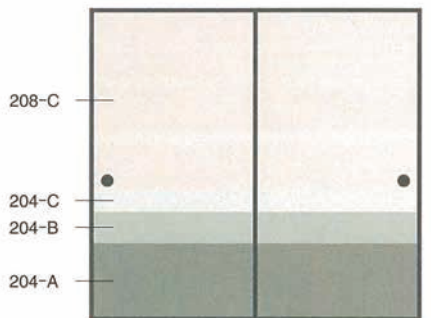
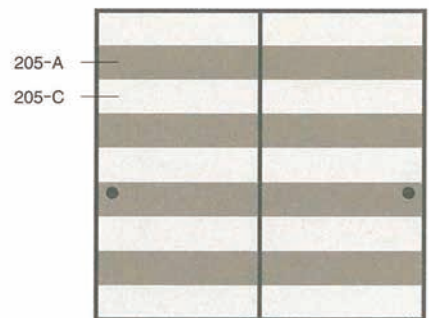
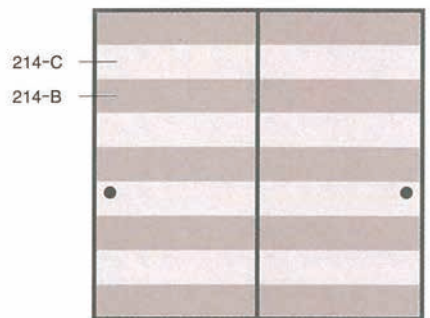
ここでは、幾つもの帯模様を積み重ねたような意匠を集めてみました。

直線の模様を生かした配色で、端然としたデザインにしたり、紙を喰い裂き裁ちして、紙の境目の線を承らかく見せたりもできます。

このような模様は、大広間のような大きな空間でも、連続した襦模様として均整のとれた表現になります。



※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。

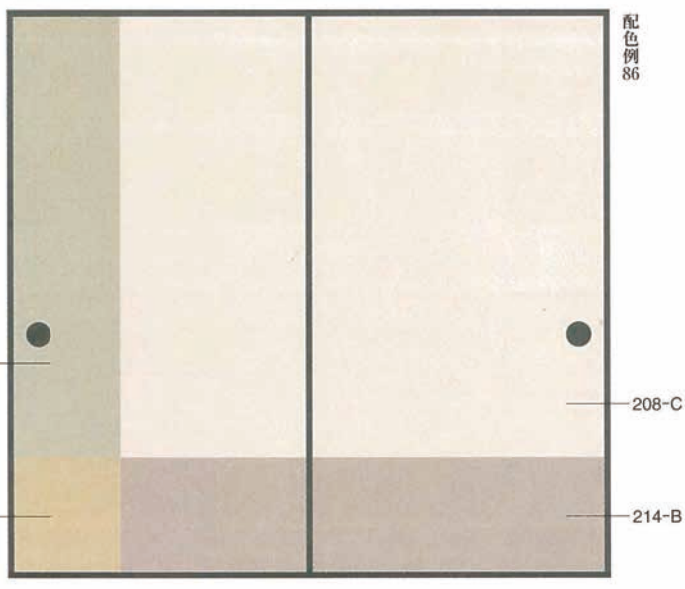
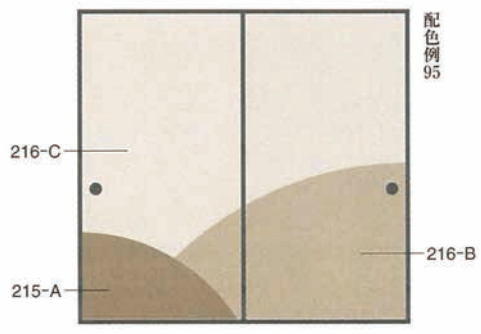
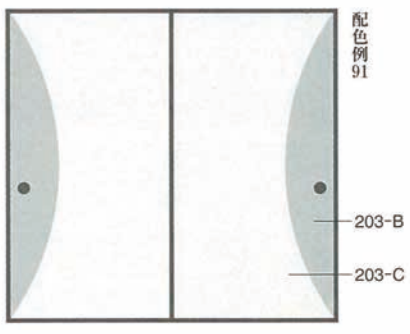
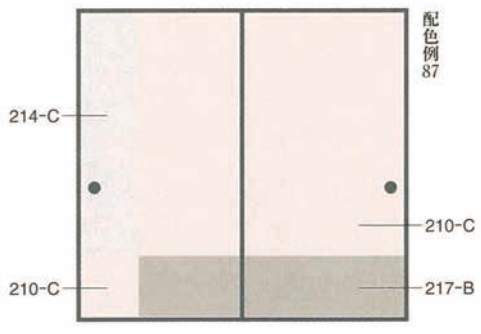


細工貼り
— かわり模様・式

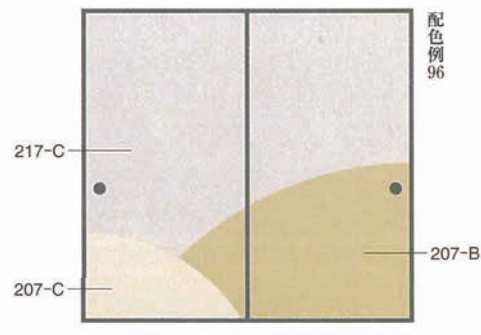
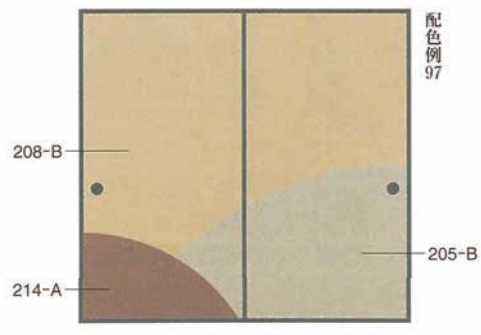
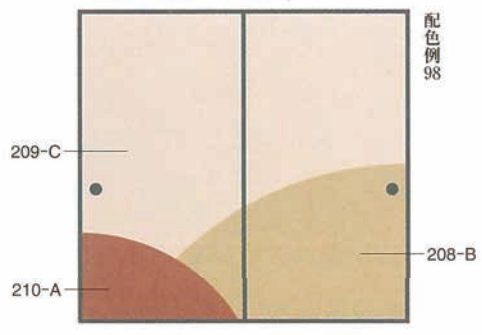
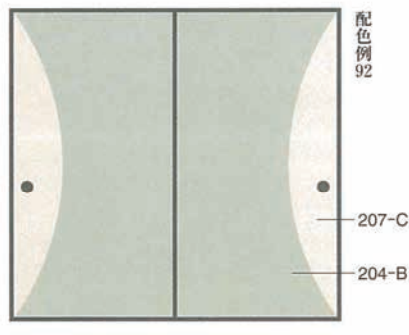
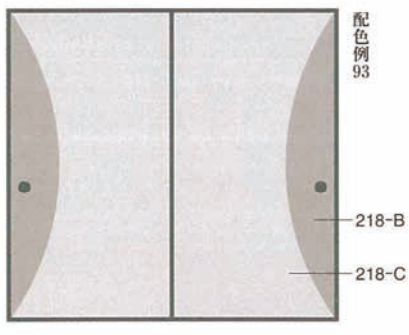
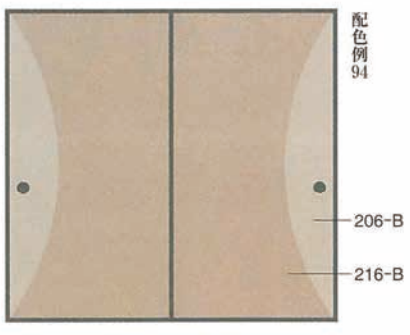
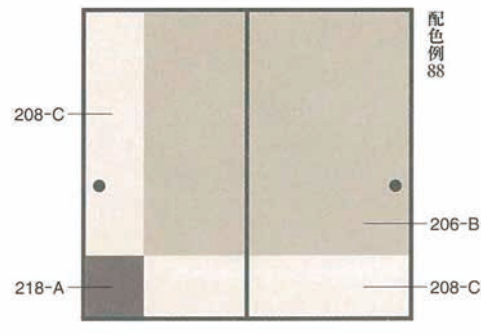
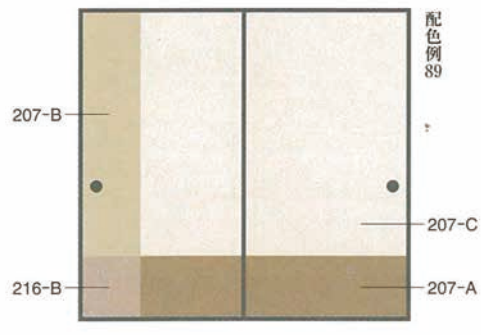
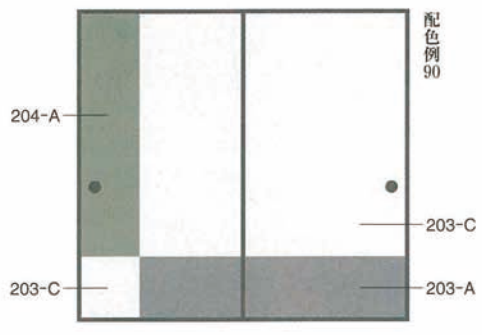
デザインの自由度からすれば、細工貼りにかなうものはありません。キャンバスに絵を描くように、白地のふすまに自在に筆を走らせることができるからです。ただし、筆を和紙に置き替える必要はありません。

和紙は濡らすと上質なものほど伸縮が強く、片面だけに和紙を貼ると、厚い板でも乾くときの縮む力で反ることがあります。

このため、複雑なデザインの細工貼りには、反りやねじれを防止するため、表具職人との打ち合わせが肝要になります。



※印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。



※上図は配色例です。ご注文の際は和紙の種類もあわせてご指定ください。《参 照》細工貼りのふすまについて (220頁)

細工貼り(貼りませ)のふすまについて

- デザインにもありますが、事前に施工業者との打ち合わせをお勧めします。
- 複数の紙を貼り分けるには、突きつけ貼りや継ぎ貼り、重ね貼りなどの方法がありますが、複雑なデザインのものは複数の技法を併用することになります。

突きつけ貼り：一般的には細工貼りでは使われませんが、貼り帯などで隠れる下貼りで、紙を継ぐ際に使うことがあります。

継ぎ貼り：継ぎ手として9mm～12mm程度の重ね代で貼り継ぎます。

重ね貼り：腰貼りや帯貼りなどとして全面を重ねて貼ります。

- 2種類程度の和紙による腰貼りや袖貼り、引き手さわりなどの単純なデザインの場合は、重ね貼りで施工することが多いです。
- 多種類の和紙を使う場合は、一般的には継ぎ貼りをお勧めします。3枚以上の重ね貼りは“そり”や“ねじれ”の原因になることがあります。
- 継ぎ貼りの際は特に、上質な和紙で下貼りしてください。強度の弱い下貼り紙では、後日に継ぎ目から裂けることもあります。
- 継ぎ貼りの重ね代は、少なくとも9mm～12mm程度重ねてください。
- 重ねた紙の厚みによる線を目立たなくするには、下の紙を喰い裂き裁ちします。また、下の紙の重ね代の紙裏をサンドペーパー(100番程度)で薄くする方法も使われます。
- 上貼りでの突きつけ貼りは、後日、継ぎ目が開いたり、裂けたりすることが多くお勧めできません。
- 凹凸のある和紙は、できるだけ表側に貼ってください。
- 複数のふすまにつながる斜線のあるデザインでは、となりのふすまの斜線とのつながりに注意してください。内法寸法(現場寸法)と縁の見付き(幅)を勘案して貼り位置を計算します。
厳密には、事前に建て合わせをして柱や鴨居に合わせておきます。
- 同じ染め色でも紙の種類によっては、明度や色相などが微妙に変化することがあります。紙肌や光沢、繊維の違いなどによるものです。
- 紙の表には“糊”が付かないように注意してください。染め紙は“糊”などの浸み跡が出やすく、指などに付いた“糊”にも注意してください。

壁紙としてお使いの際は

この見本帖に収録した和紙は手漉きのふすま紙として制作いたしました。このため壁紙としてお使いの際は次の点に留意ください。

＜事前の打ち合わせ＞
和紙による壁貼りはビニール壁紙の施工とは本質的に相違します。和紙の種類にもありますが、事前に施工業者との十分な打ち合わせをお勧めします。

＜規格寸法の確認＞
和紙の種類により規格寸法が違います。厳密な寸法はそれぞれの頁のcm表示を参照してください。
別注制作ですが、紙によっては2m70cm×98cm程度の大判寸法が制作できるものもあります。制作可能な紙は価格表の[3×9]の欄に○印で表示しています。数量などにより価格が変わりますのでお問い合わせください。

＜模様のつながりはありません＞
すべて手作りのため、リピートやジョイントでの模様のつながりはありません。

＜糊付け機は使えません＞
糊は必ず刷毛付けしてください。既製品の壁紙のように糊付け機は使えません。

＜糊の種類＞
ほとんどの壁紙用の糊は使えません。しみや変色などの原因になることがあります。必ず、和紙貼りに対応した刷毛付け用の糊をご使用ください。出来れば、昔からの手作りの煮糊による〈中糊〉と〈回り糊〉をつくることをお勧めします。
(市販の煮糊にはアンモニアなどの添加物が含まれていることがあります。)
ショールーム「からかみ屋」では和紙の壁貼りに最適な糊をご案内いたしています。お問い合わせください。

＜染めつけ順による色濃度の違い＞
厳密には浸け染めによる染め色は、染めはじめの紙と最後の紙とは多少濃度が変わることがあります。施工前に濃度の差と並び順の確認をしてください。

＜染めつけロットによる色違い＞
染料の調色は大変微妙で、気温や水温などの違いでも発色に変化が出ます。このため同一製品の追加制作では、厳密な色合わせはできません。

＜紙の種類による染め色の变化＞
同じ染め色でも和紙が違くと、明度や色相などが微妙に変化して見えることがあります。紙の原料の種類や配合比率の違い、紙肌や光沢などの相違によるものです。

＜ジョイント＞
●ジョイントは原則として重ね貼りとします。重ね代(重ね合わせる幅)は少なくとも9mm～12mm程度にしてください。
●重ね代の下側になる紙の厚みによる線を目立たなくするには、喰い裂き裁ちをお勧めします。厚みのある紙の重ね貼りは、重ね代の紙裏をサンドペーパー(100番程度)で薄くしてから重ね貼りする方法もあります。
●突きつけ貼りはお勧めできません。従って、ジョイント部分の重ね切りもしないでください。紙の表に“糊”が着き、浸み跡になることがあります。
●袋貼り下地の場合、下貼りの和紙は必ず上質なものをお使いください。強度の弱い下貼り紙では、施工後に裂けることもあります。
●ローラーは使わないでください。撫刷毛をお使いください。
●糊がはみださないように濃いめのものを薄めに糊付けしてください。

＜紙の表に糊を付けない＞
ジョイントなどから、紙の表には“糊”が付かないようにしてください。染め紙は“糊”などの浸み跡が出やすく、指などに付いた“糊”にも注意してください。
また、貼り上げ後の柱まわりや見切り縁、幅木などのふき取り時にも、和紙に糊などの汚れがつかないようにしてください。
費用がかかりますが、汚れ防止のためにも予め和紙に防水引きの加工することをお勧めします。(221頁参照)

＜下地調整について＞
ボードのジョイントなどのパテによる補修は丁寧にしてください。空気の抜ける穴などがあると、紙の表にしみをつくる原因になることがあります。
必ずシーラー処理をしてください。

＜下貼りについて＞
多少割高にはなりますが、十分な下地調整の上、袋貼り2回に清ベタ貼りされることをお勧めします。また、下貼りの和紙は上質なものを使い、喰い裂き裁ちをしてください。

＜左右の色違い＞
大判の手漉き和紙は、一枚の中でも部分によって多少の厚薄ができます。これを染めつけると紙の厚みにより微妙に染め色が変わります。縁のあるふすまではほとんど視認できませんが、壁紙のように貼りつなぐと、ジョイント部分で色の違いがわかることがあります。

＜施工手順について＞
和紙貼りの下地構成については画一的なものはなく、下地の種類や下貼り紙、下貼りの回数、上貼り紙などにより、構成や施工手順が違ってきます。また、地域の特性や環境、施工する表具職人によっても変わることがあります。施工業者と事前にお打ち合わせください。
ショールーム「からかみ屋」では、参考資料として施工手順や糊についてご紹介した簡単なリーフレットを用意しています。お問い合わせください。

＜防火壁装について(防火1級の表示品)＞
「防火1級紙壁紙」表示のものは、「からかみ屋FP」の名称で登録しています。
防火壁装の内装制限に該当する場合は、袋貼りせずに直貼りとなります。施工に際しての詳細は壁装材料協会「壁紙標準施工法」をご参照ください。

規格外の寸法について

和紙の種類により、規格外の大判の和紙が制作可能なものもあります。お問い合わせください。ただし、規格外のものは別注制作となるため、価格は制作数量などによりその都度お見積りいたします。

特注の加飾について

染め紙をつかった加飾は多彩で、正倉院の御物を始め平安期の華麗な料紙などに代表されます。これらの伝統的な技法は現在でも再現できるものも多く、私どもではふすまだけでなく壁面などの極めて大判の和紙を用いたものから、和歌や俳句の扇面や色紙などの小さなものまで制作いたします。

金銀の箔を蒔き散らす砂子細工、木版摺りの雲母押し、銀泥引きの木版研ぎ出し、刷毛を用いた引き染め、金銀の箔押し、肉筆画などの技法を用いて、ご要望に応じたデザインをつくります。代表的な制作品は、全国のショールーム「からかみ屋」に展示しています。お問い合わせください。

表面処理〈礬水(どうさ)引き〉について

伝統的な日本画の表面処理の技法でもあります。また、歴史的な建造物のふすま紙は、ほとんどが礬水引きされることにより補強され、現在まで残されています。

- 礬水は膠(にかわ)と明礬(みょうばん)を混合した水溶液です。これを刷毛引きしますと、表面に薄い膠の保護層をつくり、和紙の肌合いを生かしながら、紙の強さと汚れにくさを保ちます。和紙によっては、3～4回繰り返し礬水引きをします。ただし、ビニール壁紙のような耐水性や強度はありません。
- 礬水引きした紙は施工の際の糊付けなどで湿らすと、表面の膠が水分を含み粘ってきます。この状態で紙同士を密着させたままにしておく貼り付いてしまうことがあります。礬水引きした紙を湿らしたときは取り扱いに注意してください。例えば、貼り上げた直後のふすま数枚を壁などに立てかけて乾かす際は、一部分であっても上貼り同士が密着しないようにしてください。
- 礬水に限らず、染め紙の表面に樹脂などを塗布すると、染め色が若干濃いめに変わります。微妙な色合いをご希望の際は注意が必要かもしれません。
- 「礬水引き」の価格は、礬水の回数や和紙の種類、寸法、数量で変わります。お問い合わせください。

染め色の指定について

ご発注の際の商品番号は、次のような組み合わせとなります。

①	②	③	④
和紙番号	色番号	明度記号	(寸法)
8 2	－	2 0 1	－ A
－ (3 × 6)			
①	和紙番号　：　1 1 ～ 8 2		
②	色　番　号　：　2 0 1 ～ 2 1 8		
③	明度記号　：　A (深染め)・B (中染め)・C (浅染め)		
④	寸　　法　：　和紙の規格寸法(各頁に記載)		

- 染め色の指定は、82頁に収録した「栞染め鳥の子」の54色からお選びいただけます。お使いになる「和紙番号」の次に、「栞染め鳥の子の色番号」と「明度記号」を指定します。そして、最後に「寸法」を指定してご発注ください。
- 染め色は、和紙の原料や紙の厚薄、繊維の流れ、光沢の違いなどで微妙に変化します。このため、同じ色指定であっても「栞染め鳥の子」の色相や明度とは厳密には一致しないことがあります。
- 染料はその都度調色してつくりますので、制作日の違いにより若干の色違いが出ることがあります。追加制作は多少の色の違いをご了承ください。

引き手の底寸法

品 番	名 称	大	中	小	左右	備 考
31～48	漆塗り引き手	58	41	－	－	丸
81	赤銅梅木爪	61	37	28	－	丸
82	素赤お坪	60	40	32	－	変形丸
83	青味宣徳底折松葉	79・27	57・18	39・14	有	縦横寸法
84	宣徳雪月花	62	45	39	－	丸
85	赤銅色紙	48	31	26	有	角

収録写真はすべて原寸大です。

引き手

引き手は袂のポイントです。

図柄の邪魔にならず、

開け立てに便利な有用性を持ちながら、

その家の主人の人格を

さりげなく表すものとして、

単なる小道具以上の役目を果たしてきました。

伝統的なからかみの意匠や紙質を

より効果的に引き立てるものとして、

櫨と桜の地下に天然の漆塗りの引き手も用意しました。

からかみと漆は、日本の風土に

根ざして発展してきたものであり、

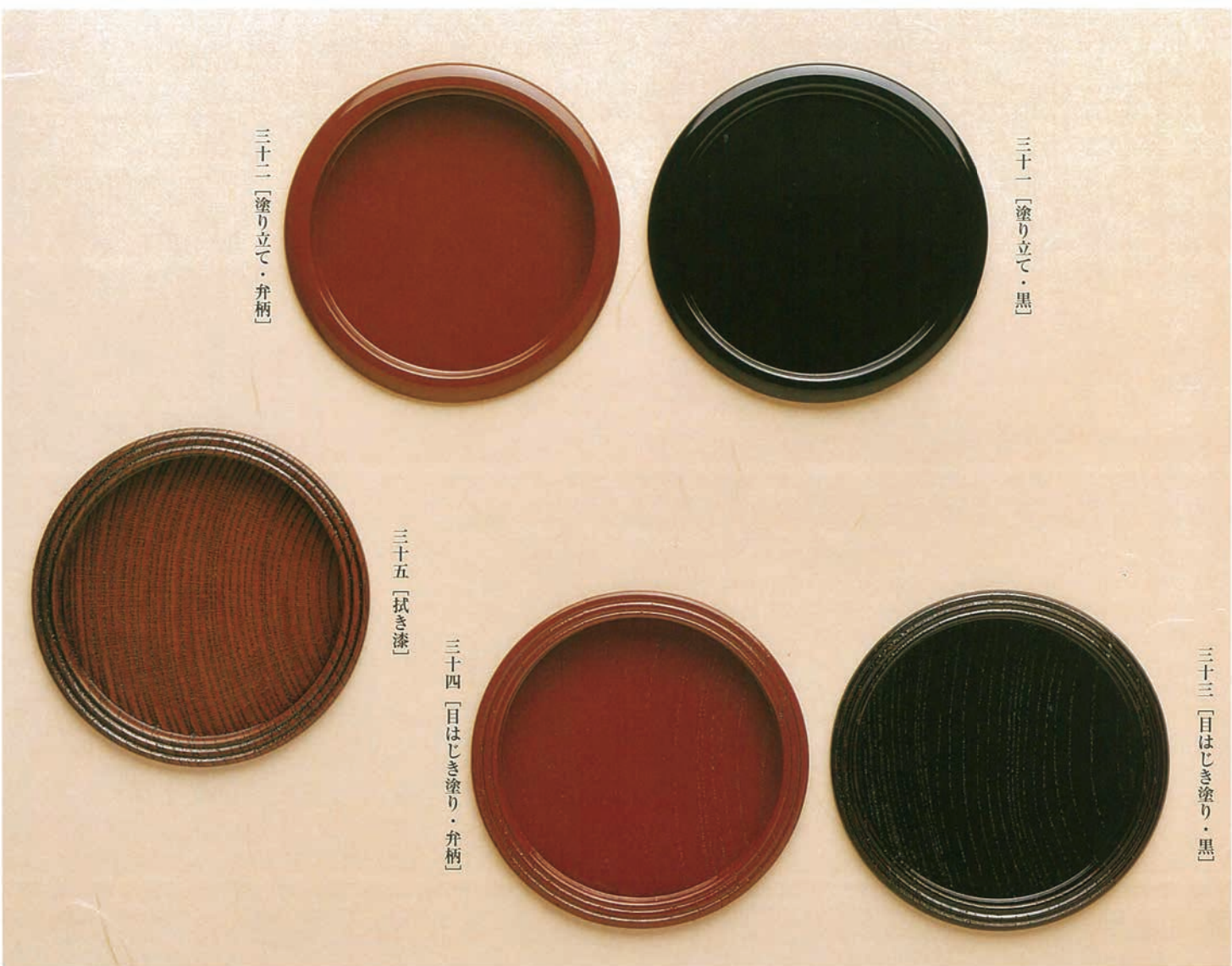
どちらも自然の持つ味を

存分に生かしたものであります。

（「ショールーム」からかみ屋」では、さまざまな引き手を手に取ってご覧いただけます。）

漆塗り引き手

丹念に塗り重ねたり研ぎ出したりする漆塗りの引き手です。
ここでは黒、弁柄、うるみの色を生かす木地として櫟と桜を用いました。



三十一「塗り立て・黒」

三十二「塗り立て・弁柄」

三十三「目はじき塗り・黒」

三十四「目はじき塗り・弁柄」

三十五「拭き漆」



三十七「呂色磨き・黒」

三十八「呂色磨き・弁柄」

三十六「溜め塗り」

三十九「乾漆粉蒔き・黒」

四十「乾漆粉蒔き・うるみ」

※写真は原寸大ですが、印刷のため実物と多少の色違いはご了承ください。

蒔絵引き手

蒔絵は漆工芸の代表的な加飾技法でその用途も種類も極めて豊富です。収録したものは、黒呂色に地描きし、木金粉を蒔き、漆で粉固めて研ぎ出すという平蒔絵の技法です。

※写真は原寸大ですが、印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。



四十五「柳」



四十八「梅ヶ枝」



四十七「松葉」



四十六「桜」

伝統のかたち

引き手のかたちにはさまざまな伝統があり、趣向を凝らしたものが少なくありません。伝統のかたちは汲めども尽きぬ豊かな情緒に加えて、ご心配の余裕まで感ぜられます。

※写真は原寸大ですが、印刷のため実物との多少の色違いはご了承ください。



八十四「宣徳雪月花せんとくせつげつか」



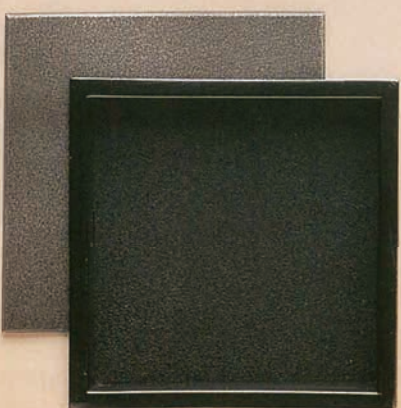
八十一「赤銅梅木瓜しゃくとうめいもくこ」



八十三「青味宣徳底折松葉あおみせんとくせこおれまつば」



八十二「素赤お坪すあかつぼ」



八十五「赤銅色紙しゃくとうしき」

伝統からかみの端
染め紙編

しおり草

発行 平成十一年六月二十六日
ふすまのショールーム・からかみ屋

東京 新宿区四谷1-22-2

TEL 03-3355-1102

名古屋 名古屋市中区橋1丁目4-6

TEL 052-331-8660

大阪 大阪市天王寺区北河堀町7-22

TEL 06-6775-5191

新潟 新潟市中央区東堀通五番町440

TEL 025-2227-3400

*無断複製、転載を禁じます。